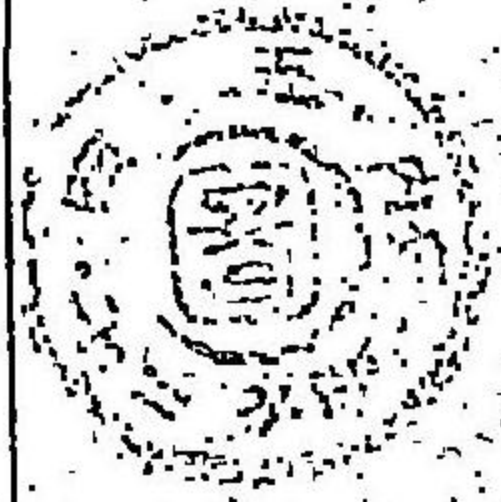


飯田平作著

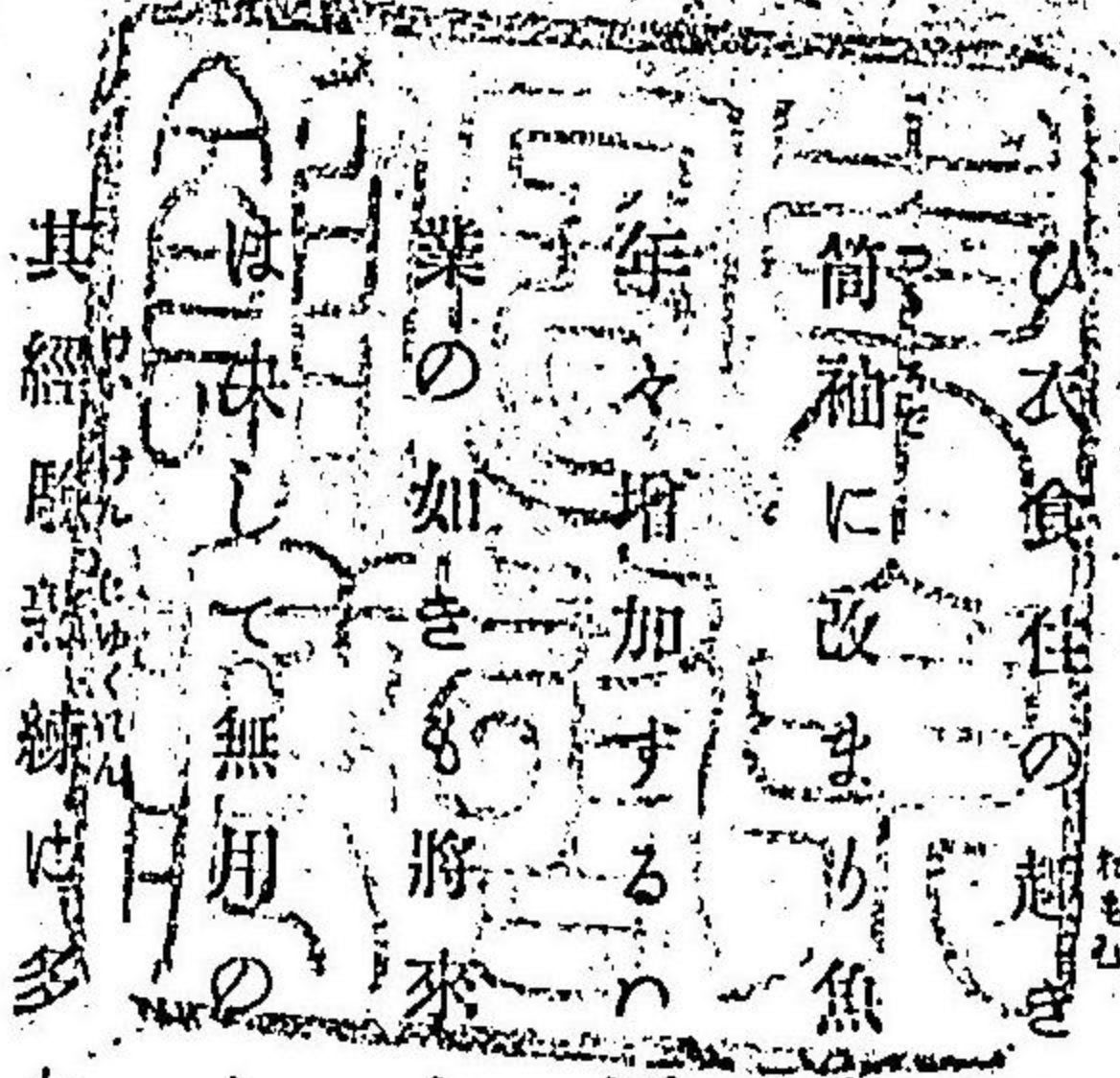
養鶏手引草

豊岡町種禽場藏版

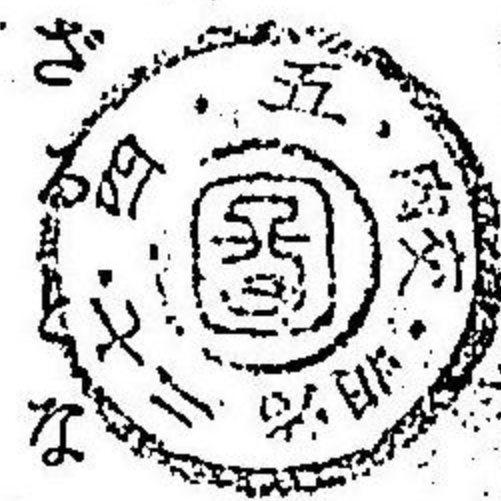


緒言

養鶏の農家副産業として益あるとは今更喋々の辨を要せざるべし
とも近年我國開明の進歩は海外各國との交通ますます親密なるに従



ひ衣食住の趣をも一變して木造の家屋は煉瓦となり角袖の衣服は
筒袖に改まり魚肉よりも鳥獸の肉を好むが如くにして牛豕鳥肉店の
年々増加するの覆ふべからざるの事實なりされは牧畜業は勿論養鶏
業の如きも將來大に望みあるの副産業なれば此業を擴張せんとする
は決して無用のとにあらざれども規模を盛大にして専業とするには
其經營訓練は多少の時日と費用とを要すべきものなれば余は簡にし
て入り易き所謂農家餘業の副産物として毎戸に十羽以下の鶏を飼養
するの尤も益あるとを信するものなり



さて毎戸に十羽以下の鶏を飼養するには鶏の餌料は別に備へ置くに
 も及はざる程のものにて農家には雑穀の遺粒厨下の残物あれば是等
 の食物を以て充分なりとす且つ鶏の種類には肉用種、卵用種等の區別
 あれを農家に飼養するには卵用種を以て尤も便利にして益あるもの
 とす何となれば産卵用鶏は概ね其性活潑にして高翔自由なれば野外
 に放飼するも狐狸、犬猫の害に遭ふと稀なるのみならず屋内の一隅に
 塒を釣りおけば日暮時に上るにも早朝時より下るにも起宿に面倒の
 手数なればなり

歐米各國にては牛、馬、羊、豚は勿論鶏も次第に改良を進め肉用鶏は一羽
 にして一貫五百目以上にまで肥大し卵用鶏は一羽にして一ヶ年の産
 卵數平均二百顆より二百二三十顆に達するものあるは余が多年飼養

して實驗に徴する處なり就中アンダールシヤン、ミノルカ、レグホーン、ハ
 ンバーグ種等の如きは尤も多産有益の鶏なれば在來の日本鶏に代る
 に是等の改良洋鶏を以てせば是までに倍する收益あるは疑を容れざ
 るなり

改良洋鶏を飼養して一ヶ年に得る處の收入金額を概算せんに毎戸五
 羽の雄鶏ありて一羽二百顆の卵を産すとせば一ヶ年に得る處の卵數
 は千顆にして一顆の價を八厘とすれば八圓なり一錢とすれば拾圓な
 り農家の小民にして一ヶ年に十圓の金を得るは容易の業にあらざる
 なり小作田畑を耕して十圓の金を得んとするには幾人役の勞力を要
 すべきや糸を紡ぎ機を織りて八圓の金を得んとするには其賃銀幾反
 の織物を要すべきや養鶏業の費用少くして利益の多きに比すれば蓋

同日の論にあらざるなりされば余は農家毎戸に十羽以下の鶏を養ふに雑穀の遺粒厨下の殘物を以てせば廢物を利用して其益の多きは農産物中他に其比を見ざるの業たるを信するものなれば各地方の殖産家諸氏に向つて養鶏の利あるとを小農民毎戸に説き獎勵せられんとを希望するものなり

養鶏の一事は管に農家の副産業として利益あるのみに止まらず其營業の何たるに論なく居宅廻りに多少の空地ある家なれば官吏役員職工商人等何等の職に従事する人にて厨下の殘物等を與へ所謂廢物を利用して之を飼養するに於ては費用尠なくして得る處多きの副業たるべし僅かに五六羽の鶏を飼養して一ヶ年十圓の金を得るとせば其収入は家計の一部を助けて兒童就學の謝金及筆紙墨の費に充つべ

きなり學齡の童子をして鶏を飼はしむるは最も童子に適し益ありて害なきの業なり元來兒童の頭は金魚小禽鶏犬類の動物を好むの性あるものなれば之をして鶏を飼はしむるは即ち童子の性の好む處に投するものなりされば鶏を兒童の所有物と定め置かば一層其飼養を勉め朝は學校に赴く前に於て鶏舎を開き餌水を與へ午後學校より歸宅すれば卵を集め戸締りをなす等好んで樂みとするや疑を容れず既に此樂あれば樹登り。捧打。喧嘩。掴み合等の惡戯に耽けるとなくして自然父兄たるものゝ心を安んずるの方便ともなるべきなり

余が知友に某氏あり士族にして今は無職業なれども家政正しく經濟に長し舊藩政の頭より所有の邸宅は今尙存して失はざるのみならず隣地までも買入れて殆んど二段歩を有し果樹桑樹を植へ付けて熟す

六
れは實を賣り茂れは鬮を飼ひ其收穫以て家計の幾分を補ふとなるが
四五年前より余が飼養する處の歐米改良種鶏採卵用のレグホーン。ミ
ノルカ。アングルシヤン。等を贈りたるに追々蕃殖して數十羽を樹下に
飼養せるに其卵より得る處の金額年々三十圓内外なりと某氏に學齡
の子女三人あり右の鶏を各子女の所有と定め學業の餘暇勉めて之を
愛育せしめ父母は之を監督して日々得る處の卵は之を市に鬻ぎ月謝
金筆紙墨の料に充るのみならず尙餘りあるものは各其好む處の玩具
等に換るを許せりと蓋し良法と云ふべきなりされは居宅廻りに空地
ある家なれば容易く着手すへきの副業たるは此一例を以てしても明
白なりとす又鶏卵は食品中尤も良好の滋養物なれば日々牛乳を用ふ
る家抔にては之に代るに此物を以てせば毎に新鮮の卵を食し得るの

益あり故に其身を愛養するの人兒童を教育するの父兄にありては宜
しく速かに養鶏の副業を試むべし決して坐上の空論にあらざるを信
するなり

鶏卵の滋養分多くして善良の食物たるは既に世人のよく知る處な
り隨て需用の多きは之を取扱ふ商人の勤なからざるを以ても證すべ
きのみならず我内國産のものゝみにては其供給に缺乏する處ありて
年々支那地方より輸入するもの勤からず神戸横濱二税關のみの調査
に據るも其金額は毎年五六萬圓を下らざるが如しされば今後大に養
鶏業を盛んにするは小は一家の利益大は一國の歳出を防ぐの一助に
して國利民福に關する殖産事業なれば勉めて之を獎勵せざるべから
ざるなり

八
我國農を以て生計をなす者の戸数を去る明治廿四年分の調査に係る統計集誌第三百三十七號に據れば自作小作の農民を合して五百四十八萬九千六百三十戸とあり今假りに之を大約五百四十萬戸として毎戸に一雄五雌の鶏を飼養するとせば其羽数は三千二百四十萬羽にして此内より雄鶏五百四十萬羽を除き残る雌鶏の数は二千七百萬羽なり一雌一ヶ年の産卵数を百五十顆とすれば此卵数は四十億五千萬顆にして一顆の價を平均八厘とすれば實に三千二百四十萬圓の巨額となり此巨額の金を得るとは云ふべくして行はれざるにあらず成すべくして得らるべきの金なり農家の副業として毎戸に五六羽の鶏を飼養せしむるの一事は僅かに一訓令の下に行はるべき易々たるの事業ならん彼の租稅徵收の爲めに勘なからざる手数を要するが如き面倒

なる事柄にはあらざるなりされは三千二百四十萬圓の巨額を他日得らるゝの時あるものとせば此金は以て軍艦を作るべし以て道路を改築すべし以て堤防を修繕すべし鐵道も布くべし電線も架すべきなり余は斯る有益なる遺利を今日まで棄て顧みざるを惜むなり余は當路の人に向つて全國の農民毎戸に養鶏の副業を奨励せられんとを希望して已まざるなり明治廿七年三月九日東京市芝區三田豊岡町種禽場に於て飯田平作識す

養鶏手引草

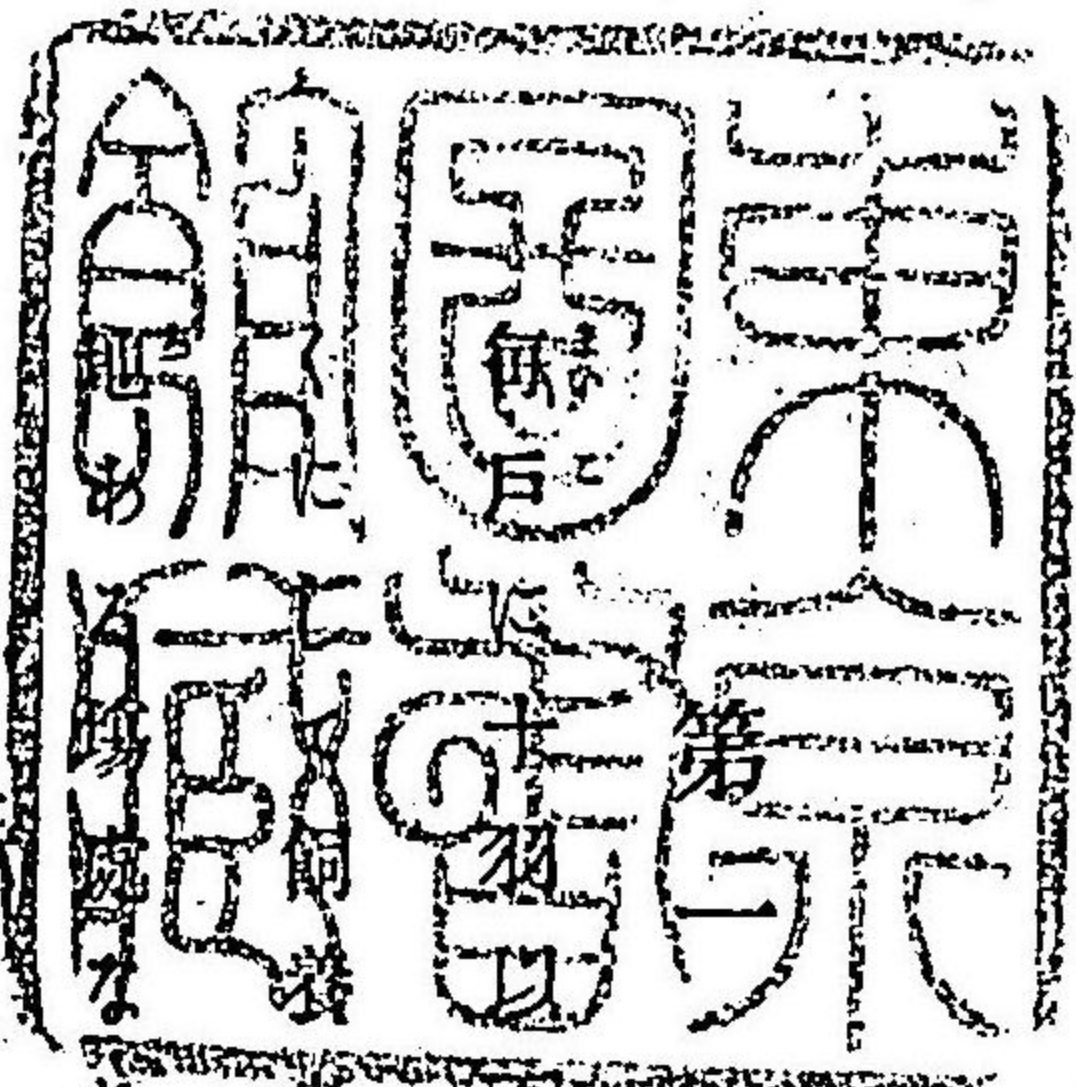
目次

第一	毎戸少數の飼鶏法	一頁
第二	養鶏業創始の心得	十頁
第三	種卵孵化の季節及種卵の運搬	十二頁
第四	天然と人工との孵化適要法	十三頁
第五	母鶏と假母器の飼育適要法	十五頁
第六	雛の取扱飼育法。雛の食餌調製法及分 與法	十六頁
第七	千羽飼ひに適する鶏類	二十九頁
第八	千羽飼ひ鶏舎及附屬建物の構造	三十三頁

第九	鶏舎の建設に適する地所	四十頁
第十	鶏の食餌及調製法。給與の度数及分量	四十三頁
第十一	常用食餌の外に與ふべき食物	四十六頁
第十二	千羽飼ひに要すべき人員	四十九頁
第十三	害虫驅除及豫防法	五十一頁
第十四	孵化用種卵及鶏卵分析	五十五頁
第十五	鶏病に關する豫防注意	五十九頁
第十六	鶏種の類別及容貌畧解	七十三頁

養鶏手引草

飯田平著作



毎戸小數の飼鶏法

下の鶏を飼養するの利益あるは緒言にも述べたるが如何なる人は其營業の何たるを問はず居室の外僅少の空地に飼養し得らるゝとして其飼養法とても餘り六かしき業にあらざれば今更喋々するにも及はさるとなれども巢鳥の取扱ひ及飼養法の大畧を記して参考に供すべし毎戸十羽以下の鶏を飼養せんとするの最初に於ては一番の親鶏を以て着手するか卵を孵化

して雛より着手するかの二法あるのみにして親鶏より着手せんとす
るには先づ屋内又は物置所の一角に鶏時の必用あり高翔に自由なる
産卵種ならば時を高處に設け體格肥大にして高翔に困難なる肉用種
ならば低き場處に箱鶏舎を備へ置くなり此親鶏が産卵を始めなば
春季二三月の頃孵化好時季を見計らひ巢鳥を用意して卵を温めしむ
るなり巢箱には蜜柑箱の空きたるものに柔らかなる藁を布き其上に
藁の如き編みたるものを布き凹く巢を作り巢鶏の大小に應じて六七
顆より十顆内外の卵を抱かしめ成るべく暗き場處に置くべし又自宅
飼養の鶏に蟄巢の念を發して巢入りをなすときは其儘に抱かしむる
もよし而して此巢鳥の食餌給與は正午前後に毎日一回巢箱より出し
て伏籠の中に入れ餌水を與ふれば日夜の蟄巢にて空腹なるを以て直

ちに飲食して糞を落し嘴を磨くの容姿あらは籠より出して再び巢箱
に入るゝなり此手續きにて三週間を経過すれば卵は孵化して雛とな
るなり然るに此三週間中巢箱は温熱の爲めに「ワグモ」と唱ふる害虫巢
箱の中に發生するものなれば此發生を豫防するには最初巢箱へをな
すときに箱の周圍に石炭油を吹きかけるをよしとす又三週間中一週
間毎に巢箱を新たに作りて取換るとなせば此害虫發生の憂なし若
し又此取換をなさずして巢箱を三週間其儘になしれくときは蟄巢鶏
の害虫の爲めに鮮血を吸ひ取られて次第に瘦せ衰へるのみならず孵
化せし雛にも害虫傳播して雛の發育を妨るものなれば此害虫發生の
豫防は必ず怠る可らざるなり孵化後育雛上のは別項に記載するを
以て爰には略す(此雛が追々發育して四五十日を経れば最早雌雄を

も區別せらるゝとなるが飼養者の望む處は雌の多きにあるとなれども卵にて雌雄の鑑別は文明の今日と雖も尙未だ定まらざるを以て己むを得ず雌發育せし上にて雄鶏なる不用の分は之を除くとなれば十羽近き鶏を得んとするには春季に少なくも二腹の雛を飼育するをよしとす而して此雛が次第に生長して産卵するまでに及べば與ふる處の食餌は雜穀の遺粒厨下の殘物ありて鶏の餌料には多分の貯へをなすにも及はず日々産卵の所得は費す處少くして得る處多き本業外の副産にて兒童の學費位に得らるべきなり又鶏の産卵數は孵化後滿三年間は飼養するも産卵を減ずるとなし三ヶ年以上のものは追々産卵數を減ずるを以て毎年一二腹の雛を飼育して新陳交代せしむべし又此飼養鶏の種類に就ては近來我國にも歐米諸國より改良有益のもの

のを輸入して追々蕃殖中の事なるが肥肉と多産の點に於て我國の在來種に比すれば固より同日の論にあらざるなり是等の改良種中に於て体格の偉大なるものは一羽にして一貫四五百目に達し産卵の多數なるは一雌一ヶ年間の平均二百二十三十顆に及ぶものあり其種類の大略は別項に記するを以て爰には略すされば採卵を目的として飼養するには産卵種あり需肉を目的とするには肉用種ありて夫々専門の種類あれども歐米改良の産卵種は産卵の夥多なるが爲め蟄巢の念に乏しく偶々蟄巢の念を發するものあるも性質活潑敏捷の舉動あるを以て母鶏に適せずさりとて母鶏を他より借り入るも面倒なるともあるべければ肉用種の雌鶏二三羽を混して飼養すると便利なるべし肉用種の鶏ハ性質温順にして母鶏に尤も適すればなり尙又米國にては卵

用肉用の兩用を兼る改良種を作りて之を飼養するもの多し此卵肉兩用種とは即ちプリマースロツク種。ワイアードツト種是なり此二種の体格は卵用種よりは大にして肉用種よりは小なる中間のものなるを以て産卵の点は採卵専用種よりも稍や劣れるが如くなれども母鶏にも適して便利なり余の實地試験にては二種とも一ヶ年一雌の産卵數は百五十顆を下らざるが如しされば是等の雌鶏を採卵専用種の中に混して飼養せり自家に於て母鶏をも得らるゝ便あるべし

又農家毎戸に十羽以下小數の鶏を飼養する種類は放飼自由のものを適當とするなり故に狐。狸。犬。猫の害に罹らざる敏捷活潑の種類をよしとするを以てレグホーン。アングルシヤン。ミノルカ。ハンバードの類最も利益あるべし就中アングルシヤン。ミノルカの如きは産卵の夥多なるのみならず大卵を以て名あるの鶏なり左にアングルシヤン鶏に就て曾て余が飼養の實驗を掲げて讀者の参考に供すべし

明治廿三年五月某日東京府下本郷區駒込大八木氏(輸入者)よりアングルシヤン鶏の種卵八顆を譲り受け(一顆の卵量)廿目より二十三目までなりし(一羽の巢鳥に抱かしめたるに同年六月二日五羽の雛孵化せり)不結果なる三顆の卵を破壊せしに二顆は殻中に於て羽毛を生じたる儘死し一顆は赤黒色の流動液となりて腐敗せり(借此五羽の雛の爾後其發育他の鶏に比すれば最も速かなるが如くにして孵卵後三十日を経過せし時の體量一羽に付四十五目より五十目までなりしが雌雄は未だ判然せざれども三雄二雌の如く思はれたり其後六十日目の體量を驗せしに百四十目より百六十目迄に達し豫想の如く果して三

雄二雌たると判明せり羽色の雄は悉く灰色なりしも雌は一羽は灰色他の一羽は灰白交りのものなりし追々成長するに従ひ狹き柵内のみにての發達を妨ぐるの恐れあるを以て二雄は近在なる余が蕃殖場に移して飼育せり(此二雌は其後一雄は誤て斃し一雄は在神戸の知人青木氏に譲れり)残る一雄二雌は自宅に於て飼育せしが其年も暮れて翌年一月九日一雌始めて産卵し二日を隔て、他の一雌も産卵を始めた。り此時の鶏の躰量を驗せしに雄七百五十目雌七百目内外なりし初産より一週間は二雌とも隔日の産卵なりしが其後は連日産卵し四五日を隔て、一日を休産するの割合にて同年七月までは殆んど此有様に産み續けたが而して八、九、十の三ヶ月間は換羽の爲めにや大に産卵数を減し其後十一月より十二月までは平常に復せり即ち左表の如き

有様にして殆んど滿一ヶ年間二雌にての産卵数は四百二十六顆一雌の平均数は二百十三顆なりし

アンダルシヤン鶏二雌一ヶ年間産卵表

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
三三	四七	四八	三七	四三	四五	三九	二八	六	二二	三七	四二	四二六

又卵量の大なるは他の産卵鶏の及ぶ處にあらすして一月の初産より換羽期七八月までは一頭の卵量二十目内外にして小なるも十七八目を下るものなく平均十八九目のもの多かりしが換羽を終りて十月以後に産したる卵は二十目以下のものは甚だ稀にして二十目より二十三日までの卵を産し實に其大顆なるに驚き毎度來訪の客の一覽に供したりしが爾後今日まで此血統のものを繼續蕃殖し一昨年來家禽品

評會にも出品して一昨年は二等賞を得昨年は一等賞と三等賞を得たり、アングルシヤン鶏の實驗大畧斯の如くにして余は産卵鶏中此種の如きは有益屈指のものたるを信するなり

第二 養鶏業創始の心得

實用的養鶏業の創始に於て種禽を購入して着手するよりも卵雛を購入して着手する方が費用掛なきは勿論の事にして徐々其歩を進むるときは失敗の憂もなくして種卵の取扱ひより雛の飼育法等漸次に経験をも得るの便利あれば養鶏業創始には雛卵よりするを得策なりとすれども爰に又遠隔の地より卵雛を取寄せんとするには自然其顆數にも限りあるとなるべければ孵化上の結果又は飼育上の巧拙に依りて一度之を誤るときは再度雛卵を遠國より取寄るには多少の時日を要

して孵化育雛に其年の好時季を誤り來年を待たざるを得ざるにありべし殊に雛の如きは季候風土の異なるに従ひ其發育を妨るのみならず爲めに病を醸す事なきにしもあらざれば有益なる種禽中卵用肉用兩三種を撰みて之を購ひ飼養すれば産卵するに従つて之を孵化せしむるの便利あるは勿論運搬の爲めに卵の孵化力如何を心配する憂もなく好時季の孵化も意の如くなるを以て資本に許す處あらは二三種の親鶏を購ふこそ其目的を達するの捷徑なるべし卵雛より着手し其雛の生長して産卵するまでに至るは早くも半ヶ年を費さざるべからざるを以て余は其資本に許す處ある限りは親種禽を飼養して其卵を直ちに孵化せしむるこそ却て經濟に適ひ目的を達すると速かなるべきを信するなり

第三 種卵孵化の季節及種卵の運搬

種卵孵化の好時季は一ヶ年中二三四の三ヶ月を最も適當の季節とす此季節に孵化せし雛は發育速かにして甚だ強壯なり六月前後入梅の季節迄に百日内外を經過せし雛は陰濕の氣に觸るゝも爲めに病を醸すと甚だ稀なり入梅陰濕は鶏の爲めに最も恐るべき季候にして此季節に孵化せしものは飼育甚だ困難にして得失相償はざると多し又卵を甲地より乙地に運搬するには汽車汽船の便を以てするも孵化力を失ふといなきものなれども適々孵化力を失ふて失望の歎あるハ畢竟荷作りの不完全なると取扱ひの粗略なるに起因するものなり余は數年來各地愛鶏家よりの望みに應じて出荷するには汽車汽船の便に依るは勿論小包郵便物として山路の峻険を馬車等にて運搬せしものに

ても孵化力を失ひざるは事實に徴して保證する處なり余は昨二十六年遞信省に於て小包郵便物の取扱開始以來毎に此便法を利用するに注文者より好結果を得たるの報に接するハ毎度の事にして今後も盛んに此便法を利用して要望者の需めに應じ一日も早く全國に改良鶏を蕃殖せしめ此業をして國益の一助となるの日あらんと希望に堪へざる處なり

第四 天然と人工との孵化適要法

種卵を孵化せしむるに母鶏をして温めしむるを天然孵化とし器械の温度を用ひて孵化せしむるを人工孵化とす創始の際の取扱ひには天然孵化は易し人工孵化は難し何となれば天然孵化の如きは唯巢箱の用意をなして整巢鶏に卵を抱かしめ毎日一回宛給食すると又一週間

或は二週間を隔て、巢箱の中の藁藎等を取換るまでの手數なれば從來の仕來りもありて誰人も知る處にして大概はよく孵化すれども人工孵化は器械的のとなれば唯其使用法の説明書に依て直ちに之を實施せんとすると甚た容易ならざるなり火力温度の高低種卵上下の回轉水分蒸發の加減等ありて最初二三回は失敗も免かれざる多しとす。されば養鶏業創始の際には得易からざる必用の種卵は母鶏に托し孵化器には必用にあらざるものを入れ置き試験用に充て天然と人工とを兩なから用ふるを得策とす而して孵化器の使用を誤らざる迄に達し假母器を用ひて雛を育するに熟練を得るに到らば天然孵化法の迂遠不便利を廢して孵化器假母器の便を採るは申すまでもなきとされども人工飼育に熟練を得るまでに達するは尠なくも滿一ヶ年間を

費さるべからず然るを最初より人工飼育に着手して失敗を取るときは常に不結果を失望するのみならず手を空ふして育雛の好時季を過し經濟の點に於ても尠なからざる損失あるべし

第五 母鶏と假母器との飼育適要法

養鶏業創始の場合にては雛を飼育するに母鶏に托するは易し假母器を使用するは難し何となれば雛の時は身体虛弱なるを以て寒暖の變化に最も感じ易きものなり假母器の使用は寒暖を適度に保つとは假令自在辨の装置あるにもせよ甚た容易ならずして暖に過ぎ冷に失する多かるべし之が爲め虛弱なる雛の身体に感觸も尠なからされば爲めに大なる病害を醸して活潑の生育は覺束なかるべし是れ他なし未だ假母器の用法に熟練を得ざるが爲めなり之に反して母鶏に托

したる雛は常に母鶏の指揮に従ひ冷に過れば母鶏の腹下に集りて己が体を温め又温まれば出て遊び呼べは來り散ずれば呼ひ好餌あれば啄ましめ思ふが儘に運動の自由をなすを以て無病健全知らず識らずの中に發育するは自然人の氣付かざる處の自由をなし好餌を拾ひ啄食と運動と其度に適ひたるの結果なりと知るべきなり然れども假母器も其使用法に熟練を得て寒暖其度を誤らす食餌の調製投與の加減等に妙を得るに到らば多數の雛を一時に飼養する經濟上の利益は母鶏に托して飼育するの出發多きに比して同日の論にあらざれば固より人工飼育の便を採らざるべからざれども其熟練を得る是れ亦容易ならざるなり

第六 雛の取扱飼育法雛の食餌調製法及分與法

雛を孵化せしむるには成るべく多くの巢鳥を貯へ一時假の卵を抱かしめ置き十羽或は二十羽の巢鳥揃ふたる時に於て同時に孵化用種卵を抱かしむべし鶏卵は抱卵後三週間に於て孵化するを常とすれば同時に卵を抱かしむれば同時に孵化するは勿論の事なれども多くの巢鳥の中には自然巧拙もありて抱卵せしめたる數の全く孵化するもあれば三分一又は三分二内外の孵化もあるべければ甲の母鶏は十雛を保育するも乙は僅に一二雛を保育する等の平均あるべきに免かるべからざる處にして是等の少數の雛は寄せ集めて一母鶏に托するは勿論然らざるも十羽を保育する母鶏に更に十羽を預けて保育せしむるも差支へなきものなれば母鶏を減して手數の省けるのみならず餘れる巢鶏には積坐(一度抱卵せしめて孵化せし處の雛を他に取り除きて

更に再び抱卵せしむるを云ふ法を用ひて更に新卵を抱かしむるの益
あるなり斯の如く一羽の母鶏に二十羽の雛を托するときは三十羽の
巢鳥にて孵化せし雛は十羽の母鶏に托すべければ残る二十羽の雛
鶏には更に新卵を抱かしめて續坐せしむるの便あるなり諸右の如く
にして漸く孵化せし雛群は育雛室に母鶏と共に移して飼育するとな
るが孵化後二日間は鶏卵を湯煮となじたるものを細く刻み又別に青
菜をも細く刻みれきて少量宛交るべく幾度にも與ふべし一時に多く
を與ふるときは雛の其上を踏み付けて無益に屬するものなり孵化後
二日を經過せし後、與ふべき食餌の調製法に種々あれども爰には最
も適當なりと認むるもの一二を記すべし
焼たる鰯魚、鮫及青菜を楯盆にてすり潰し水にて解きたるものに糖粉

欠

MISSING

長するに従ひこの育雛器にては狭きに過ぎて窮屈なるとなれば最早雛を母鶏より放して育つるも差支へなし既に母鶏を取除くときは夜分寒さに感せぬやうに蜜柑箱杯の中に入れて上より木綿切を覆ひ防寒の注意なかるべからず又最初より廣き場處に放飼して育つる場合には母鶏のある方却て夜分杯防寒の面倒なくして便利なれば七八十日までも雛を母鶏に付けおくべし

右は一時に數十羽の雛を飼育するの法なれども一腹二腹宛を孵化して飼育するには其取扱ひに於ても自から異ならざるを得ずして大に其趣を異にするものなれば左に小數の雛を飼育するに就ての概略を述ぶべし

雛の飼育法に就ては諸家の實驗説も多くして其法一様ならず甲の是

とする處乙は非とし丙の非とする處丁は是とし又氣候風土の異なるに依て多少の相違もあるとなれば余が經驗して是なりと思ふとも其土地氣候の異なるが爲めに不成蹟を來すともあらん暫く記して參考に供すべし採るべき處もあらは余の満足する處なり

雛の成長せずして死するは大概不注意より起るものなりされば之を取扱ふには充分の注意なかるべからず注意深き母鶏は朝露の未だ乾かざる間は決して巢を出るとを好まず朝露又は雨に濡るゝは雛の爲めに最も害あるものにして生育を妨るのみならず之が爲め疾病を醸すとあるものなり母鶏は草露の乾きたる頃より巢を出て數多の雛を引き連れ彼處此處を逍遙して雜穀の遺粒又ハ虫類等を見出して雛に與ふるなり然るに雛は是等種々のものを喰すれども固より豫め用意

して雛に與へたる食物にあらざれば一時に飽かしむべき程の食物あるにはあらず彼處此處を遊りて運動の爲めに身體を勞し漸く得たるものなれば一時に多量の食物を得るにあらずして餌糞が充分に膨るゝ程の飽食にあらざれば食物の消化よく雛は健全に發育するなり是れ天然飼育に就て有益なる摸範とするに足るべきものなり若しも之に反して朝早く未だ草の濕りたるにも拘はらず又天氣の寒きにも頓着なく雛を巢より逐ひ出して餌食を與へ彼等が喰し與ふ丈けの食物に飽かしめ餌糞を膨らしむるときは運動も懶くなりて一所に集まり不活潑を來して爲めに往々食滯病を發せしむるとあるなり又運動は雛の爲めに必要なるは勿論のとなれども亦時としては大に害となるとなきしもにあらず是れ他なし母鶏が雛の足力如何を計らすよき餌

料を捜索して雛に與へんとの愛情より彼處此處と己が足方に任せて運動をなすより雛は運動の度を過して終には疲勞に絶へずして困臥するが如きとあればなり斯る憂を避けしめんが爲めには孵化後四五週間は大きな伏籠の中に母鶏と雛とを入れて適宜の食餌及水とを與ふるをよしとす然れども數多き雛を終日伏籠の中に入れておくと雛の發育を妨るの恐れあれば斯る場合には伏籠の目を粗く作りて雛が其目より自由に出入し得べきやうになすべし然るときは雛は籠より出るも母鶏は常に伏籠の中にあるを以て雛が遠く離れて遊ばんとするときは母鶏は呼ひ聲を發して警戒を勤め決して雛を遠ざからしめざるを以て雛は母鶏の籠の周圍を巡りて自由に遊び戯るゝが故に伏籠の中に究屈を感せずして發育十分なるものなり犬猫等の外敵ある

場處なれば其害を防ぐ注意なかる可らず自家に飼養せる犬猫なれば之を馴らして誨るときは害を加へざるのみならず共に遊び戯るに到るべきなり伏籠の置場所は成るべく乾燥の地を撰むべし朝露又は濕氣の甚しき地は忌むべし伏籠に入れて戸外に出すも朝夕の冷氣に感せしめざるやうに朝遅く出し夕は早く仕舞はざるべからず又春季の温暖なる日にても伏籠中の一部分は日蔭の出来るやうに上より覆ひものをなして暖に過ぎざるの注意なかるべからず夏季炎熱の候には樹下清涼の場處を撰みて苦熱を避けしむべし雛の初めて生るゝや一腹の雛一時に悉く孵化するは稀なるとにて多少の遅速あるものなれば此際母鶏は尙巢に伏するものなり雛生れて一晝夜即ち二十四時間其儘巢箱の中に母鶏と共に置くをよしとす

雛は初めの二日間即ち生れて四十八時間は少しの食物を與へざるも飢餓の憂なきものなり這は雛が殻内に於て發育中に必用なる餌料となるべき滋養分の未だ腹中に残れるものあるを以てなりざれば此際雛に最も必用なるは母鶏に被護されて寒さを感じせしめざるに在り凡そ母鶏の被護は尤も雛を強壯ならしむるものにて此被護の効能は善良なる食餌を與ふるよりも大切なるものなり故に餘り早く雛を母鶏より離すはよろしからず母鶏に被護するの念ある間は成るべく分離せしめざるをよしとす雛は總て温暖を好むものなり雛が適々母鶏に離されて在るの場合には雛は相集りて互ひに暖を取るものなり例之は假母器にて飼育中の雛が適々温度を失ふ等のとあるときは互ひに頸を縮めて相集まるは寒さを厭ふの一證として見るべきなり

第七 千羽飼ひに適する鶏類

千羽飼ひ鶏の種類に肉用卵用の二種ありと雖も其土地の状況に依て自然其種類は異ならざるを得て即ち肉と卵との需用其何れに多きかを認めて割合よき方の種類を飼養するは勿論の事なれども我國今日の有様より考ふるときは卵用種の利益多きは迎ても肉用種の及ぶ處にあらざるが如し何となれば肉にてよく捌ける場處は東京大坂京都等の如き繁華の地に過ぎずして其他の地に飼養するには卵用種にあらざれば多くの利益を見る能はざるべきなり卵なれば第一運搬にも餘り量張らざるの便利あると貯藏の出來得るとは假令其地にて需用者なくも他へ運搬して賣捌くに多くの費用を要せざればなり然るに肉用種鶏の如きは一時に多くの出荷をなすも東京大坂京都等を除く

の外は賣捌きに困難すると多かるべし況んや生物の事なれば食物の
 手當もなざるべからざれば出荷の上にて取引延引等の事ありては
 大なる損失を招くや必せりされば今日の日本に於ては全國中に於て
 十中の七八分は産卵種の飼養を便利なりとするなり然るに歐米改良
 の産卵種の整巢の念に乏しくして孵化用の母鶏に適せざるを以て産
 卵鶏専養の場合に於ては往々巢鳥の乏しきに困難する事あるべけれ
 ば母鶏に適すべき肉用種をも兼養すると必用なるべし孵卵器専用の
 場合に到らば是等の母鶏の必用にあらずと雖も養鶏業創始の際には
 母鶏の必用あるのみならず肉用種と雖も孵化後滿三ヶ年間はよく産
 卵し一ヶ年一雌の産卵数は其飼養法よろしきに適すれば百五十顆を
 下らざるべし加之肉用種類其性總て温順にして取扱ひに便利なれ

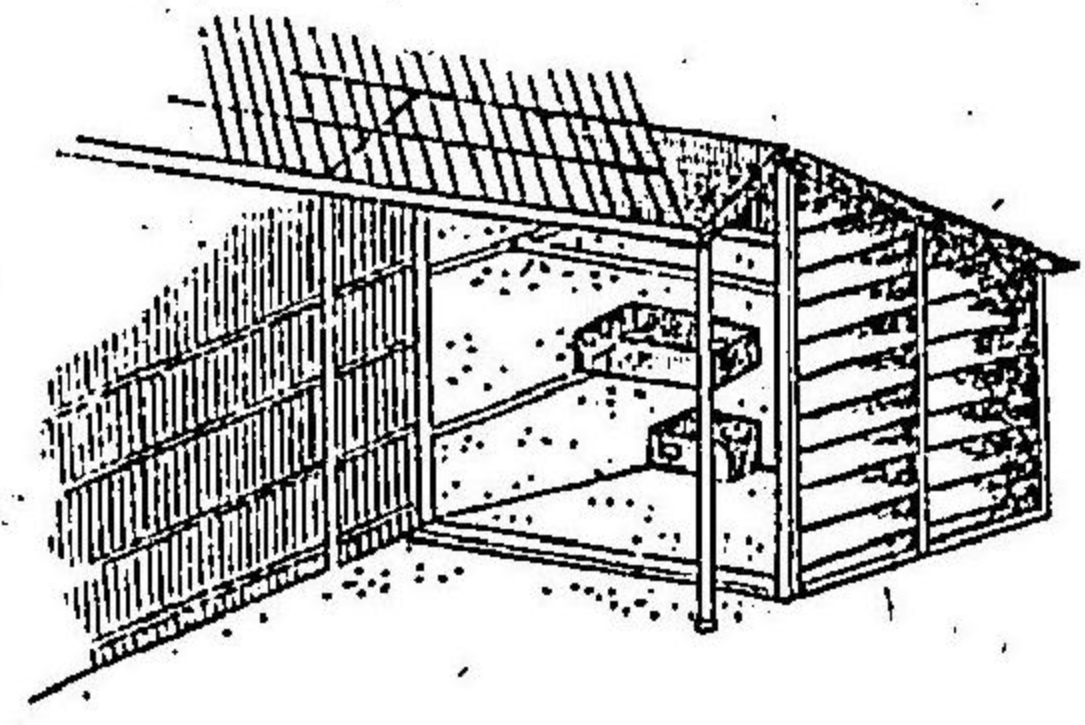
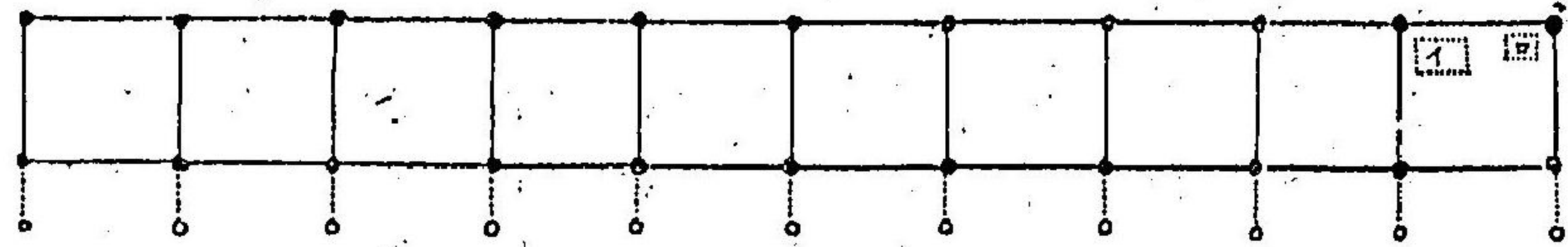
ば假令孵卵器を用ふるとに巧みなるの術を得るとも其傍ら肉用種類
 を飼養して雛の飼育を助けしむる場合亦なきにしもあらざるべけれ
 ば余は千羽の内に於て卵用種を六分肉用種を四分の割合に飼養する
 を甚だ便利なりと信するなり斯る事情のあるを以て卵用肉用を兼る
 の鶏を飼養するもよろしからん即ちワイアード種ブリマースロ
 ック種の如きは米國に於て卵肉中間の一種族を作り出して甚だ便利
 有益の鶏なりとす又卵用種の内にも千羽飼ひに適當なる種類はア
 ンダルシヤン。ミノルカ。レグホーン。ハンバード。スパニッシュ。ウー
 ダン。ポ
 ランド。ラフレッシ等なり肉用種にてはブラマ。コーチン。ラングシヤン
 等なり然れども氣候風土の異なるに従ひ其種類に適不適ありポーラ
 ンド。ウーダン等の種類は暖地よりも却て寒地に適して發達の上きも

のなれば東北地方又は北海道、杯に最も適するなり。又一代雑種鶏は雛の發育よくして、肥肉多産有益のものを出すものなり。例之は肉用種と卵用種との掛合せにて得たるものにて、余が試みたる二三を左に記して参考に供すべし。單冠レグホーンの雌は漣浪プライマースロツクの雄を掛けて得たるものは、体格はプライマースに及ばざれども強壯にして産卵多数なりし。又プライマースロツクの雌に淡色ブラマの雄を掛けて得たるものは、羽色略ほ銀色ワイアンドットに似たるものを生じて、脚に少しの羽毛を着けたりしか。体格は殆んどブラマ程に成長して、大卵のものを産し、産卵數も多かりし。其外ブラマの雌にウーダンの雄を掛け合せ、銀色ワイアンドットの雌にウーダンの雄を掛け合せ得たるものもありし。何れも一代雑種は有益の鶏を出すものなり。然れども此掛

合せの卵を再び孵化せしめて二代の雑種を作るは、稍や体格を小ならしめ、産卵をも減ずるとの説もあれば、余ハ一代雑種に止めて、未だ二代の雑種鶏を作らざりし右の次第なるを以て、有益の雑種鶏を作らんとするには、傍らに純粹種鶏をも飼養して、年々一代雑種鶏を作るに便ならしむるを得策なりと信するなり。

第八 千羽飼鶏舎及附屬建物の構造

一千羽の鶏を飼養するに、柵飼に適すべき鶏舎の構造は、長さ十間、奥行一間半の長屋、建二棟を要す。一棟を十區に別ちて、一區に五十羽を飼養すれば、二棟廿區にして、千羽を飼養し得べし。其構造の如きは、堀立にて、も掘付けにても適宜なり。一區の内、一坪を鶏舎の内部となして、前面には戸を建て、開閉に自由なる者となし、外部には三尺の扉を出し、おくへ



三十四

し降雨杯の折鶏の避け塲處となるのみならず
 す廂ばかりにて唯維持の柱あるのみなれば
 南面に建設するときは殆んど終日日光を通
 し暖かなる塲處なるを以て砂浴塲を設るに
 も便利なるものなり鶏舎三方の周囲は板割
 にて圍ふも壁にて塗るも適宜なれども寒威
 嚴なる土地なれば塗壁の上を板又は藁にて圍ひ外氣の直
 接に觸れざるの注意なかるべからず家根は板葺瓦葺藁葺
 等適宜なれども藁葺は蛇鼠等の潜み易きものなれば注意
 すべきとなり又鶏舎の高さは六尺以上を必用とす餘り低
 きに失するときには空氣の流通に便ならざるが爲め「ワグモ」

と唱ふる一種の害蟲發生するの憂あり又舎内の一方成るべく暗き方
 には一二層の棚を設けて産卵箱を配置するに便ならしむべし又適宜
 に棲宿木をも設けざるべからず棲宿木に繩を巻き付るの舊慣あれど
 も春季温暖の候とならば必ず之を取除くべし害蟲潜匿の恐れあるを
 以て鶏を愛するの厚意は却て鶏を害するの媒介たるものなり棲宿木
 は幅三四寸ある厚板にて作るをよしとす棲宿木を擱むに便ならしめ
 んが爲め圓き竹木を以て作るとあれども未だ發育中の雛杯を棲息せ
 しむるときは其身体の次第に重くなるに従ひ重量の爲めに胸骨灣曲
 するの恐れあれは前に述べたる厚板三四寸のものにて作るをよしと
 するなり而して此鶏舎に接續する運動塲の如きは篠竹を以て區劃の
 橋界となし其廣さは一區五六坪乃至七八坪にて足るべしと雖も其廣

狹の如きは建設地の模様據り適宜なるべし、或人之を難して曰く五
 十羽の鶏に十坪以下の運動場にては甚だ狹隘の感あり鶏の健康を害
 するの憂はなきやと固より通常の飼養法にては健康を害するとある
 べしと雖も此邊が即ち養鶏上の利益に就て其多少の岐るゝ處にし
 て巧みに飼養すれば利益多く拙なれば利益尠なきのみならず時とし
 ては損失を招くにも到るべきなり別項にも述べたる處の食餌調製法
 の如きは柵飼と放飼とに就て大に其原料を異にし柵飼用の食餌には
 滋養分の多量なるものを用ふるは勿論石灰質、木炭質のものを欠くべ
 からざるのみならず辛鹹質のものをも與へざるべからず且又運動場
 の狹隘なるは單に地坪を儉約するのみにあらず狹隘なれば周圍の竹
 柵に費用尠なきは勿論鶏糞の掃除に便利にして散逸するもの尠なき

の點は大に養鶏上の經濟に關係あるものなり養鶏業に於て鶏糞を棄
 て顧みざるが如きは眞の養鶏家にあらざるなり鶏糞より得る處の金
 は鶏の食餌の半額を償ふ等なりとは多年此業に従事する處の愛知縣
 名古屋市養鶏家の間に於ては珍らしからざるの談なりとす之に反し
 て運動場を廣くするときは遺失せる處の鶏糞を悉く収集せんとする
 に多くの時間を費すのみならず自然散逸すると尠なからざるや明か
 なりされは養鶏の利益は狹隘なる場處に於て多數の鶏を健康に飼養
 するの工風注意必要なるものにて此邊の熟練に妙を得るときは養鶏
 の利益は實に僅少のとにあらざるものなり(圖中のイロは産卵箱ハは
 棲宿木なり)

尙其外に育雛場一ヶ處物置一ヶ所を要す育雛場の構造は奥行一間長

さ六間のものを南面に建設すべし區劃は六區にても三區にても適宜なり南の方は硝子障子なれば最もよし己むを得ざれば厚紙張りの障子を建つべし三方の周圍は塗壁を密にして成るべく外氣の侵入を防ぐと緊要なり床は板にて張り詰め是亦外氣の侵入せざるやうに作るをよしとす此板張りの上には夏季は砂冬季は粗練を布くべし要する處は舍内の暖かなるにあれば是等の工風あるべきなり又此區劃中の一區は板の間の中央に二尺に三尺位の穴を深さ三尺程に穿ち此穴は漆喰にて塗り固むるか然らざれば穴に適する處の箱を製して埋むべし而して此内に火鉢を入れ置き上には鍍製の延べ棒を三四本掛け渡し其上にトタン板の二尺に二尺八九寸のものを載せ兩端は空氣の循環に便なるやうに裝飾すべし而して此トタン板の上にはケット又は

ツツクの如き厚き織物の切れを布くなり是れ大仕掛けの假母器にして解卵器にて孵化せし雛を直ちに此大仕掛けの假母器に移すの場處とすされば此一區は殊に外氣の侵入を防ぐの緊要あれは天井を張りおくは勿論天井は成るべく低く作りて周圍は紙にて目張りをなし成る丈け暖かなるの工風を要す尙此上の注意すべき一事は寒き風の強く吹く日などには箱火鉢の上に覆ふ助暖の如きものを作りて此大仕掛け假母器内なる火爐の上に覆ひおくときは温度の散逸を防ぐを以て雛は此處に集まり冷氣に犯さるゝの憂なきものなり

物置場の一棟は四坪或は六坪位のものにて足るべし即ち鶏に與ふべき食物の原料を貯藏し乾燥せる鶏糞を貯藏し籠箱桶等の一時不用に属せしものを貯藏し空俵藁等貯藏するの必用あれば二階建にあ

らすとも丈夫なる天井の如きものを設けて籠箱桶の類の如き量張り
て輕きものは此天井内に納めるとせは甚た便利なり下の一部は食
餌の調製場に充つべし尙此建築物の一方には差卸しの廂を設けて籠を
造り食餌調製の釜を備ふるの必用あり

第九 鶏舎の建設に適する地所

養鶏場の建設に適當なる場處を撰むは最も必用となり高燥にして
西北を叢林にて負ひ北より南に流れ低下して日當りのよき暖なる場
處を撰むべし又成るべくは砂利交りにして降雨の時杯に水の溜滯せ
ざる地を可とすれども高燥なる場處に砂利交りの地を得んとするは
甚た六ヶ敷き願ひなるべけれども唯好適地の一例として記すものな
れば假令平地にても陰濕の地にあらざるを撰ふと肝要なり又運搬に

便利なる場處ならざるべからず又鶏の餌料を得るに便利なる場處な
らざるべからず然るに養鶏場を開かんとするに當りて場處の廣きと
地價の廉なるとに着眼して山林不便利極る地に於てするものあれど
も是れ大なる了簡違ひなりと云はざるべからず何となれば養鶏に餘
り廣き場處を要せざるは別項にも記したるが如くにして廣ければ却
て周圍の構ひに多くの費用を要するの已むを得ざるもあるなり加之
斯る山村にては餌料を求むるに不便尠ならず且つ運搬の不便もあ
るべく斯る不便は地價の廉なる利益を以て補ふに足らざるなり鶏の
餌料に要すべき品は糶。糶。糠。糟。魚獸の屑肉等にして是等の屑ものは市
街をなすの地に於ては容易く得らるゝものなれども山村にては却て
得難きものなり例之は魚屑杯は料理屋蒲鉾屋杯ある地にあらざれば

得られざればなり

鶏舎を建設せんとするの方位は北を背にして南面なるを最も適當とす又地位の模様依りては此方位に建設するを得ざるともあるべし斯る場合に於ては西を背にして東に面せしむべし要する處は鶏舎の暖かなるやうに作るの一法あるのみなり又鶏舎に接續する運動場内には梨、柿、桃、栗、林檎、葡萄、桑等を植ゆべし夏季炎熱の候蔭影をなして鶏の爲め苦熱を避けしむるのみならず場内の果樹は自然鶏糞の地下に浸染するが爲め肥料を得て果實の收穫上に利益尠なからざるべし而して果樹の植付けは餘り多きに過ぐべからず多きに過るときは日光を遮斷して鶏の爲めに甚たよるしからず植込の配置を注意すべきとなり又鶏舎建設の場處山林に接續して野獸加害の恐れあるの地なる

ときは之が豫防は最も肝要なるとなれば周圍を竹木の柵にて廻らすより外に良法なかるべし堅固に戸締りをなすは申すまでもなきとなり加之養鶏場には犬を畜ふとは欠くべからず野獸其他の害敵を豫防するに益あるものなり又折々は銃を發するも害敵豫防に効あるものなり

第十 鶏の食餌及調製法。給與の度數及分量

柵飼鶏一日の給食度數は二度にても三度にても適宜なれども余は時間と勞費を省くが爲め一日に二度と定め午前は八時前後より午後は三時前後より給與す又給食分量の如きは鶏の種類大小に依りて異なりコーチン種とレグホーン種とは殆んど倍量の相違あり且つ食餌原料の異なるに従つて其分量に相違あり穀類の粒立ちたるものゝみ給

與する杯は到底養鶏上の經濟には適せざるものなり例之は東京の相場に於て其收支を算せんと掃き寄せの米麥平均一升四錢五厘と定め肉用種卵用種平均の給食を一日一合三四勺とせば其價は殆んど六厘にして鶏が二日に一卵の卵を産すとなし其價を一錢二厘とすれば收支の計算に過不足なく勞して益なきものなりされば鶏の餌料は一羽に付一日二厘より二厘五毛を超ゆべからざるものとして調製せされば養鶏上の利益を見る甚た難かるべきなり食餌調製法の如きは養鶏上最も注意を要すべきの點にして損益上に大關係あるもの知らるべし今爰に食餌の原料品目の概略を擧げれば即ち雜穀の掃き寄せ物、米麥の糲穀類の糠及くだけ物、穀、メシサイ(米糠と粉米と篩ふて其間より出るもの)、芋かす、馬齡糞かす、(澱粉を取りたる後のかすなり)、餡粕、麥酒粕。

豆腐から、賄所の殘物、魚獸の頭骨、腸胃、臟腑、鯢の絞るかす、田作、餡、青菜、青艸等にして其調製法の如きは先づ魚獸の屑物、田作、鰯等の肉類に適宜の水を加へて釜にて煮熟し骨の碎け棄るものは之を取除きて石臼にて搗き碎き布袋に入れて漉し尙ほ碎けざる者は取除くべし而して此肉汁は雜穀と共に煮て桶に移し粕類糠類刻みたる青菜青艸等を適宜に混和調製するなり其分量割合は大凡左の如し肉汁四升、雜穀四升、芋かす三升、餡粕、麥酒粕取合せ一斗、メシサイ、穀取合せ一斗、青菜、青艸一貫目内外なり一羽の分量は大小の鶏を平均して一日一合六七勺量目にして大凡八九十目なりとす又食餌給與度數を一日に二度とすれば午前に興へたるものは十二時頃までには悉く喰ひ盡し二三時間は全く食すべきものなければ是れ却て鶏の爲には健康を保つものなり

此二三時間は捜餌の爲め彼處此處を掻き廻り或は砂浴をなす等の時
間に必用なるとにして鶏の餌糞は食物全く消化して残る處のものな
ければ食滞病杯の憂もなく肉肥へて健康なれば隨て産卵數も多きに
到るものなり

第十一 常用食餌の外に與ふべき食物

常用食餌即ち前項にも述べたる雜穀。糠。糶。粕。屑肉。青物の外に與ふべき
食物としては石灰。木炭。胡椒。蒜等にして是等は家禽の健康を維持し産
卵を促すに必用なる食物なれば毎日順番に少許宛を與ふべし例之は
今日石灰を與ふれば明日は木炭其翌日は胡椒と申す如きを云ふなり
併し石灰木炭杯は一時に多量に與へおくも差支へなきを以て一ヶ月
に二三回に與へて空費を省くべし是等の食物は柵飼鶏に最も必用な

り何となれば僅かに六七坪に限られたる運動場内に四五十羽の鶏を
放つとなれば假令石灰質炭素質のもの地中に天然に埋没するものあ
るにもせは忽ちにして啄み盡して残すとなければ是等の食物給與は
決して怠たるべからざるなり農家杯にて五六羽の鶏の放飼せしもの
を見よ其鶏が毎に健康にして産卵をよくし体格もよく整ひて光澤を
放ち一觀愛すべきの姿勢あるは是れ他なし別に鶏の飼養法に巧みな
るにあらず否巧みなるにあらざるのみか石灰。木炭等が鶏に必用なり
杯とは少しも解せざる者さへありて此邊には頓と不注意なれども畢
竟放飼自由の生活をなすを以て已が好む處の石灰質。炭素質等は人の
眼には觸れされども地上に散逸せるものありて何時か之を啄み生育
上に必用なる物質健康上に有用なる物質に欠乏するが如きとなきを

以てなり雛の飼育とても亦同じ理合にして毎に籠の半にて飼養するものには是等の注意あるものどなきものは發育上に遲速と良否の大差を生ずるものなり之に反して母鶏が引連れて彼處此處を蕪り廻り自由放飼に任せたる雛は健康にして發育の速かなると余が言を俟たす少しく家禽の飼育に注意する人の常に目撃してよく知る處なり農家に飼養する天然育の實地に徴して明かなれば人工飼育の天然飼育に優るまでの熟練を得るは容易の事にあらずして實驗に日月を積むより外には得られざるとなりされば養鶏業の創始に際し一時に大仕掛けの計畫は甚不得策なれば徐々に歩を進め其間に熟練と經驗を得てこそ始めて千羽飼ひを實地に行ひ利益を見るに到るものと知るべきなり

第十二 千羽飼ひに要すべき人員

一千羽の鶏を飼養するに要すべき人数は三人より五人を要すべし其人数の如きは飼育上に熟練すれば三人にて足るべきも創始の際未だ飼養法に不熟なる間は五人にても尙不足を感ずるとあるべし朝夕鶏舎の開閉掃除、食餌の調製給與、鶏糞の乾燥貯藏始末等の如きは一二ヶ月を経る間には略其仕事の順序等も定まりて空費を省くに到るべきも餌料の買入扱は商賣上の掛引もあり資本に限りたる額もあるべければ隨て意の如くならざる空費もありて時間を要するとあるを免かれざるべし即ち我に望む餌料にして彼になく彼に餘るときは我にも餘り買出し場處の遠近運搬上の便不便に手数の多少をも考へざるべからず又相場の安き折には仕入るの必用なくして高きときには却て

必用なるとありされば安きものを一時に仕入れおきて之を貯へ一ヶ年の餌料となすが如きは養鶏の經濟上最も心を用ひざるべからず例之は麥糶は何月頃が多くして安し米糶は何月頃か仕入時なりと此邊に注目して掛引の働きをなすは唯鶏の飼ふのみが巧みなるばかりにても行はれざるとにして人選適當の分業も必用なり又巢鳥の取扱ひ雛の飼育法等の一通りを心得るまでには是亦一度にて済むべき事を二度にも三度にもなし一人にて手廻るとに二人も三人も掛りて漸く其仕事を果す杯のとは養鶏業創始の際に免かるべからざる事なり又子供にて出來得るとを一人前の男がなす杯のともありされば創始の當座は三人にて足るべき仕事にても五人を要するとあるべし是等の人操りをなし大人子供夫々分業して空費を省き之を司らしむるの氣

欠

MISSING

の燃る際、巢箱の内は此燃へ上る火にて焦るほど焼くべし、全く害蟲は死するなり、然らずして之を其儘に放却し、おくときは害蟲は其儘何日までも箱に残り、又は何れへか散逸して、又々害を及ぼすに到るべし、此害蟲の性強くして死せざるは箱を水の中杯に浸すとも決して死するものにあらざるなり、焼殺が最も手数を要せざるの驅除法なり。

第十四 孵化用卵及鶏卵分析

孵化用に供せんとする種卵は雌鶏が産卵して、巢箱より出るや直ちに之を取り、藏むべし、殊に寒氣の嚴しき季節には最も注意すべし、其貯へ方は箱の中に、粉糠、蕎麥かす等の如き、柔らかなる物を入れて、其上に成るべく卵と卵と密接せざるやうに並べて保存すべし、沍寒の季節には暖かなる置場處を撰まざるべからず、殊に夜間は巨燧杯のある居間に

かくをよしとす又此卵を箱の中に安置するには或は尖端を下にすべし或は鈍端を下にすべし杯と細かに其理を説き示すものあれども人為は却て天然を害するの恐れなきにあらざれば余は寧ろ之を横に置くこそ天然に叶ふものと思惟せり何んとなれば雌鶏が卵を産み落すや亦横なるを見ればなり又孵化用種卵は成るべく印形の正しきものを撰ひべし長きに過るもの又は卵の中央に輪をはめたるが如く中高く輪取りたるもの等は假令孵化するも其雛の發育鈍きものなれば最初より取除きて抱卵せしめざるをよしとす

解卵の化程に就ては小種の卵は早く大種の卵は遅しと雖も普通は三週間にして早きも十八九日遅きも二十二三日を出てざるべし爰に普通三週間を以て孵化する殻内に於て發達の順序即ち種卵を巢鳥に抱

欠

MISSING

脂肪質 九。 灰分 一。

又或書の記載する處に據れば卵黄百中にて

水分 五四。 黄色脂質 二八。五 蛋白質 一七。五

硫黄及磷 微量

卵白は百中にて

水分 八五。 蛋白質 一二。 粘模質 二二。七

鹽 〇。三

又東京衛生参考室の列品中にての分析は

水分 七三。六七 蛋白質 一二。五五 脂肪質 一三。一一

無窒素物 〇。五五 石灰質 一。一

第十五 鶏病に關する豫防注意

鶏の疾病は大抵飼養の宜きに適せざると管理の當を得ざるとに因れり故に常に飼養管理に注意すれば疾病の自から發するは甚だ稀なるものなり然れども疾病は養鶏上免かるべからざる附屬物なり尙となれば時としては偶然の事より發するとあり又多年此道に於て熟練なる養鶏家と雖も全く疾病の害を免かるゝと能はざればなり抑も疾病の發するは其原因種々ありと雖も之を要するに鶏を挾き舍内に閉込め置く事。鶏を挾き圍ひ場に群居せしめて糞の掃除を怠る事。或は充分に運動の自由を得て生長せし鶏を俄かに舍内に幽閉したく事。樹陰杯にて生長せし鶏を俄かに日覆ひなき場處に移す事。鶏糞の掃除を怠りたる舍内に棲息せしむる事などが最も疾病を招くに速かなる媒介たるものなり

病を先見して豫防するは上策なり病める鶏を治療するは下策なり古諺に曰く豫防の一オンスは治療の一ポンドに優れりと旨ひあるかな斯言や殊に此一語の僅かなる注意を以て最も多くの害を豫防する場合に適合するとを得べきものなれば余の鶏の疾病に罹らざる前に於て常に此邊に注意されんとを望むものなり尙鶏が病に罹るとあるときは其原因を詮索されんとを望む病源既に明かなれば自から之を治療するの法を發明すると容易なるべし鶏が時として不快の狀を顯はすとなきにあらず是等は往々劇烈なる發病の前兆となるとありされば斯る場合に於ては其注意尤も緊要にして直ちに是等の前兆ある鶏は取除くべし然るときは僅かなる面倒にて之を治するを得べし之に反して不快の狀ある鶏を其儘に放棄し何々病なりとの事定ま

るまで打棄ておきて顧みざるに於ては他の健康なる鶏にまで感染して終には云ふべからざるの困難を來し多くの鶏を失ふの不幸あるべし左に病源を考究し豫防注意すべき件々の大略を列擧すべし

スバエシ。ミノルカ。アングダルシヤン。レグホーン。ハンパーク種等の如き蟹巢の念薄き種類は固より産卵鶏として名あるものなれば別段産卵に適するの食餌を與へて産卵を促すに及はず假令之が催促をなすとも休産すべき期の來りて休産するは自から理由のあるとにして休産中には身体の健康を養ふものなれば斯る場合に於て産卵を促すに好餌料たる温かなる食物又は胡椒などを與へて産卵を促さんとするは却て害あるものにして之が爲め往々疾病を醸すとあり注意すべきとなり

アラマ。コーチン種の如きよく卵を孵化するの鶏は動もすれば肥大に過るの傾向あり是等は善良なる穀物及滋養分多き肉類を與へ過せしが爲めなり又小麥。大麥。蕎麥及青菜青艸の餌料不足せしか爲めに時として脚弱症に罹るとあり或は卵を産むに憚みて卵詰りの爲め巢箱の中に於て其儘斃るゝとあり要するに肥大なる鶏は三歳以上に及べば自然産卵数を減して利益甚なきものなれば屠殺するにしかす

手暴き取扱ひをなしたるが爲め又ハ巢箱の中に藪杯の如き柔かなるものゝ不足せしが爲め往々卵を破るとあり又卵殻の生成に必要な石灰質食料の不足より軟卵を産み或は産道にて卵を破壊するとあり矮小虚弱なる雌鶏と肥大強壯なる雄鶏とを同飼し爲めに其雌鶏は雄鶏の交尾せんとするが爲めに壓せられて傷けられ或は之が爲め斃る

とあり

勇猛にして争闘を好む鶏を放ちて柔順なる鶏群中に在らしむれば強
弱を凌ぎ暴威を逞ふして他の鶏を苦しむるとあり
挾き籠の中に鶏を閉ち込めて砂浴をもなす能はず或は菜草の如き青
物を欠くときは之が爲め鶏は羽虫に苦しめられ肉疲せ羽翼を垂らし
光澤を失ひ氣力衰へて産卵を休み再び産卵せざるの有様に陥るとあ
べし

鶏に肉類の滋養物を與へざるが爲め時として己が産みたる卵を喰
ひ又は他鶏の羽毛を啄むの悪癖を發するとあり
水を與ふるとを怠りて永く鶏を渴せしめたる後俄に水を與ふるとき
は鶏は其渴を醫せんが爲めに暴飲し又は汚れたる水を飲む等の爲め

に病を發するとあり

鶏の爲めに善良なる食物即ち穀類。糖類。魚獸の肉等を欠き稗又は糞糶
等の如き粗悪なる食物の外更に好餌料を與へざるときは柵内の鶏は
肉疲せ衰へて終に斃るゝに到るべし
鶏舎の構造粗漏にして風雨を防ぐに適せざるか又は餘り構造の低き
に過ぎて空氣の流通に便ならざるか又は場内に樹木なく炎熱を避る
に便ならざるか爲めに鶏をして病に罹らしむるとあり又僅かに半坪
か三尺四方位なる狭小の鶏舎にして糞の掃除を怠り又直接日光に
照らされて舎内の温蒸酷しきときには羽虫の發生なし易きものにて
害虫の驅除を怠るときは鶏の羽虫の爲めに苦しめられて死するにあ
るなり

鶏が空氣流通の恐しき鶏舎に在りて餘義なく有毒の空氣を呼吸するが爲め虎列刺又は風毒杯の病に罹るとあり斯る病を發したる場合には到底其鶏は全快の見込なきを以て斷然之を殺して其病痕を絶たざるべからず是れ簡單なる療治法なり何となれば風毒病に罹りたる鶏は或時はよく見へ或時は悪く見へて隨分長く生存すれども到底蕃殖の用に供すべからざればなり若し此鶏をして蕃殖用の種鶏に供する事あらは其子孫は風毒の氣を帶ひ容貌見惡きものとなりて利益なきものなり

曲りたる脊及歪みたる尾は種々の障害に由りて起るものなり狭き籠の中に壓せられて常に尾を一方に傾るの習慣より起るもあり又大鶏に傷けられ踏付けられたるに由るものあり或は高き棲宿木より飛下

るに由るものあり或は遺傳に出るものあり同種蕃殖法に依て繼續せし鶏には往々是等の醜體を生ずるものあり

鶏の跛なるものは往々高き棲宿木より飛下るに由り蹴球を負傷するより起るものとす蹴球の或部分より終に腫傷を發するときは之を截り開きて其心を除くとを得べし然れども其足は決して強健に復するとなし

となく再び脹起するとあるべし

魯布凍足凍冠等の害は寒氣強き時寒風凜烈なるの日又は雨雪五寒の際に鶏を戸外に出すに由れり或は雪霜の中に立たしめ或は寒風強き處に宿らしめ或は濕氣多き塲處に居らしむるも其原因となるものなり

鶏は棒石索犬猫等の爲めに傷けらるゝとあるべし斯る場合には静閑

なる場處に其鶏を移して夫々治療を施せば癒るを得べし最も治療中は時々滋養物を與へざるべからず併し其傷は癒ゆべけれども一度傷けられたる鶏は何となく生育を妨げられたるの摸様ありて強健なる他鶏に比すれば不活潑なるもの過半なり

炎熱の候に於て俄に食物を變更するは屢々下痢を起し或は虎列刺を發せしむるとあり總て食物を變更するには粗惡の食餌より善良の食餌に變するの害は善良なる食餌より粗惡の食餌に變するよりも多しとすれば食物の變更は漸を以てせざれば善良の食物を與へて却て害を醸すと多しされば食餌の各種類即ち米、麥、粳、糠、穀等あらば是等の食物を調合して食せしむべし若し然らずして今日は米翌日は麥其翌日は穀尙甚しきは一週間も二週間も米を續けて食せしめ又穀を一二週

間も續けて食せしむるが如く偏食せしむるときは産卵中の鶏も休産するものなり

久しく舍内に幽閉せられ又は柵飼に慣れたる鶏を俄に廣き戶外に放つは害あり又廣き場處に慣れたる鶏を俄に柵飼となし籠の中に幽閉するも害あり是等は漸を以て變更せざるべからず

病鶏は他の群鶏中に在らしむべからず病鶏を見出したるときは直ちに他處に移して治療すべし然らざれば病毒傳染の恐れあるものなり降雨の日には鶏を舍外に出さざるをよしとす雨に濡れしむるは甚た害あり

以上列舉せし總ての場合に於て適用すべき第一着手はよく其原因を探りて其害を防ぐとにして譬へば其病症は胃寒より起りたる魯布病

なりと認めたるときは直ちに温暖なる病室に移して薬用治療怠りなく注意し又傳染症等にて他に害を及ぼすと大なるものと認めたるときは鶏群と離隔せし場處に移して治療を施すなり併し餘り高價にもあらざる鶏ならば直ちに屠殺して其病根を斷つ等苟も病鶏と認めたるときは瞬時も之を猶豫するとなし治療豫防に注意せざる可らず鶏冠の容色は鶏の活動状態を知るに便なるより若し冠にして鮮紅なる色を呈するときは其鶏は健康活潑の高度に在るものと云ふべし唯鶏に到りては最も其健康なる證として知るべきものあり唯鶏が鮮紅なる冠を呈するときは必ず其雌鶏は産卵中に在るものなり卵を産するの鶏は身體に申分なきが故に産卵するまでの健康を保つものなればなり之に反して冠が紫色又は黄白色を帯ひて收縮するとあらば是

れ即ち疾病に罹れるの兆候なりと知るべし疾病に犯されたる鶏にしてさまで價あるものにあらざるが如きものなれば前にも述べたる通り之を屠殺して其病根を絶つをこそ最も容易簡單にして最も迅速成効なる治療法と云ふべきなり若も然らずして是等の病鶏を治療せんが爲めに因循時日を經過せしむるとあらば其病根を振むるの危険あり且つ其鶏を取扱ふには面倒なる手数と入費を要するのみならず不快の思ひをなして何等の益する處もなきものなれば速かに之を殺すの勝れるにしかざるなり

疾病の原因は種々多しと雖も其百中九十は下に述ぶる處の三原因中の孰れにか起因して發病するものなり第一は風、雨、寒、熱、氣候不順及濕氣の害なり第二は食物を不意に変更するの害なり第三は汚穢の水、腐

敗の食餌不潔の鶏舎及有毒の空氣幽閉の害なりとす
 如何なる病にても之を治療せんと欲するときは直ちに病鶏を隔離處
 に移して嚴重なる注意をなすべし然らざれば他の鶏群に病を傳染せ
 しむるの危険あればなり若し鶏に不愉快の狀態はるゝとあるも其原
 因は如何なるものなるやを發見する能はず又病の進むとも見へざる
 場合には其病鶏には愉快なる場處即ち土地の新鮮なる日光のよく通
 する場處を與ふべし而して其不愉快の狀は何の爲めなるかを發見す
 るまでは快して飲食物を與ふべからず此方法に依りて數日を経過す
 る間には往々其鶏の狀態を恢復するとあり是れ蓋し鶏の休息を欲し
 若しくは腸胃を休めんと欲するに由るものならん又其兆候が病氣を
 發して虎列刺となるともあらば速かに之を殺すにしかす病鶏を殺す

とを惜みて之を治療せんが爲めに却て其病毒を傳播して多くの健康
 なる鶏を失ふは所謂小慾大損と云ふべきなり
 尙ほ是れより進んで病名及治療法を掲ぐるの順序なれども悉くの病名
 を掲げて之が治療の方法を記さんには數十頁の紙數を増さざるべか
 らす限りあるの小冊子なれば爰には略して他日完備の家禽書出版の
 時に譲るべし

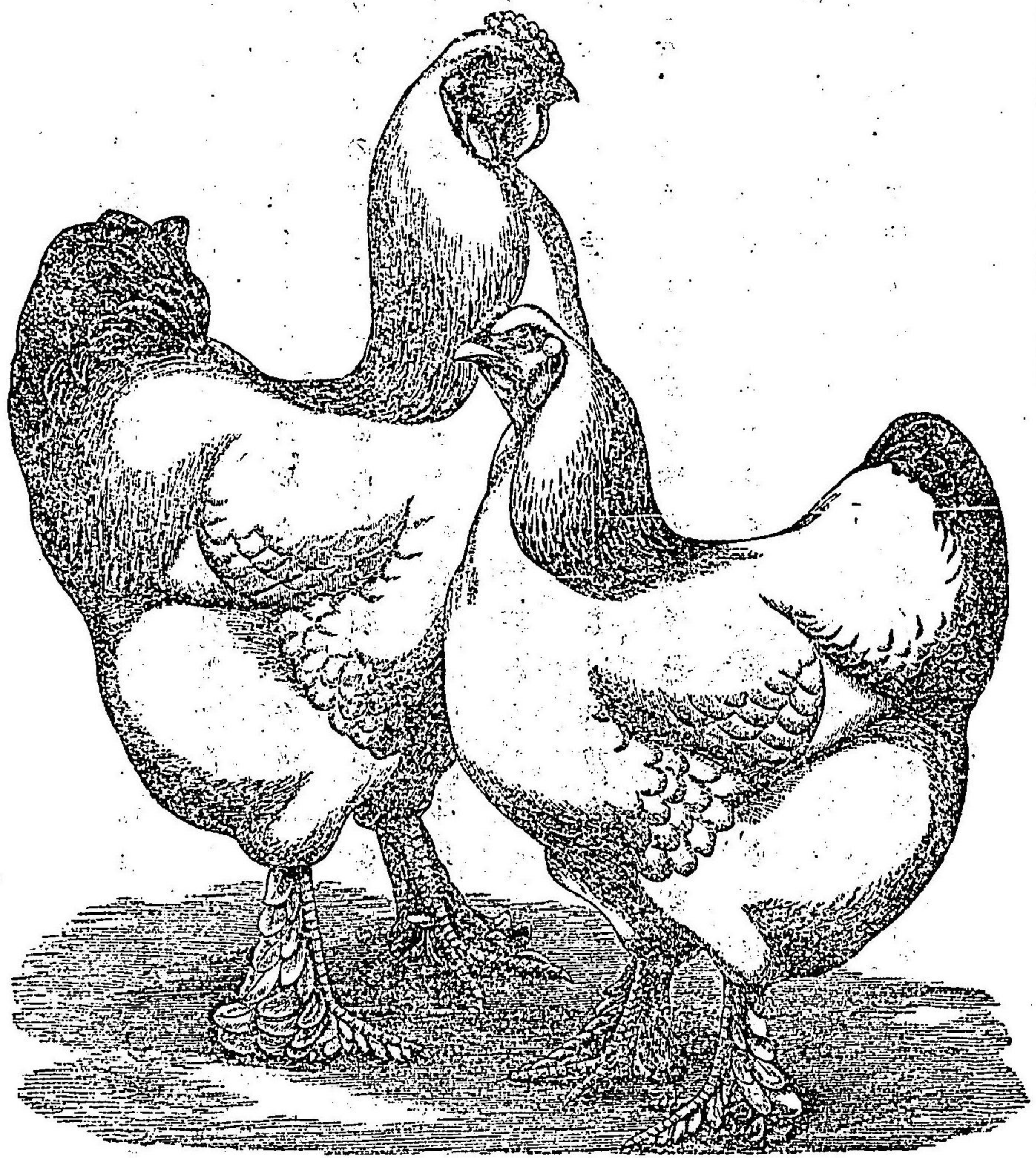
第十六 鶏種の類別及容貌畧解

鶏の種類を區別すれば肉用種、卵用種、肉卵兩用種、愛玩種等ありて其類
 別の詳細なるは一小冊紙の盡す處にあらざれば爰には其大略を記し
 て未だ實物を目撃せざる人の參考に供すべし

○肉用種類

○ブヤマ種 此種は現今の鶏類中第一に位する處の肥大なる肉を有し且つよく産卵するものなれ共飼養管理に注意せされは此種の本性を維持して有益ならしむると能はず性々過喰せしめて産卵を妨るとあり

雄鶏の容姿は直立威嚴あり冠は小にして胡桃状をなす恰も三個の小冠を接合したるが如し中央のもの稍や大なり嘴は強剛にして彎曲宜しきに適ひ肉瘤大にして其下縁は圓し耳葉の圓形にして垂下す頭は体の大なるに比すれば小なり眼は凸起爽快なり頸羽甚だ多くして背に及ぶ背は平坦にして短く尾は小にして能く彎曲せり翼は小さく軟羽と腿羽との中に收まり軟羽多く垂れ覆羽は濶くして密生せり胸部濶大にして前に張り腿部肥大にして強剛多くの軟羽あり脚は短くし



図の マラブ 色 派

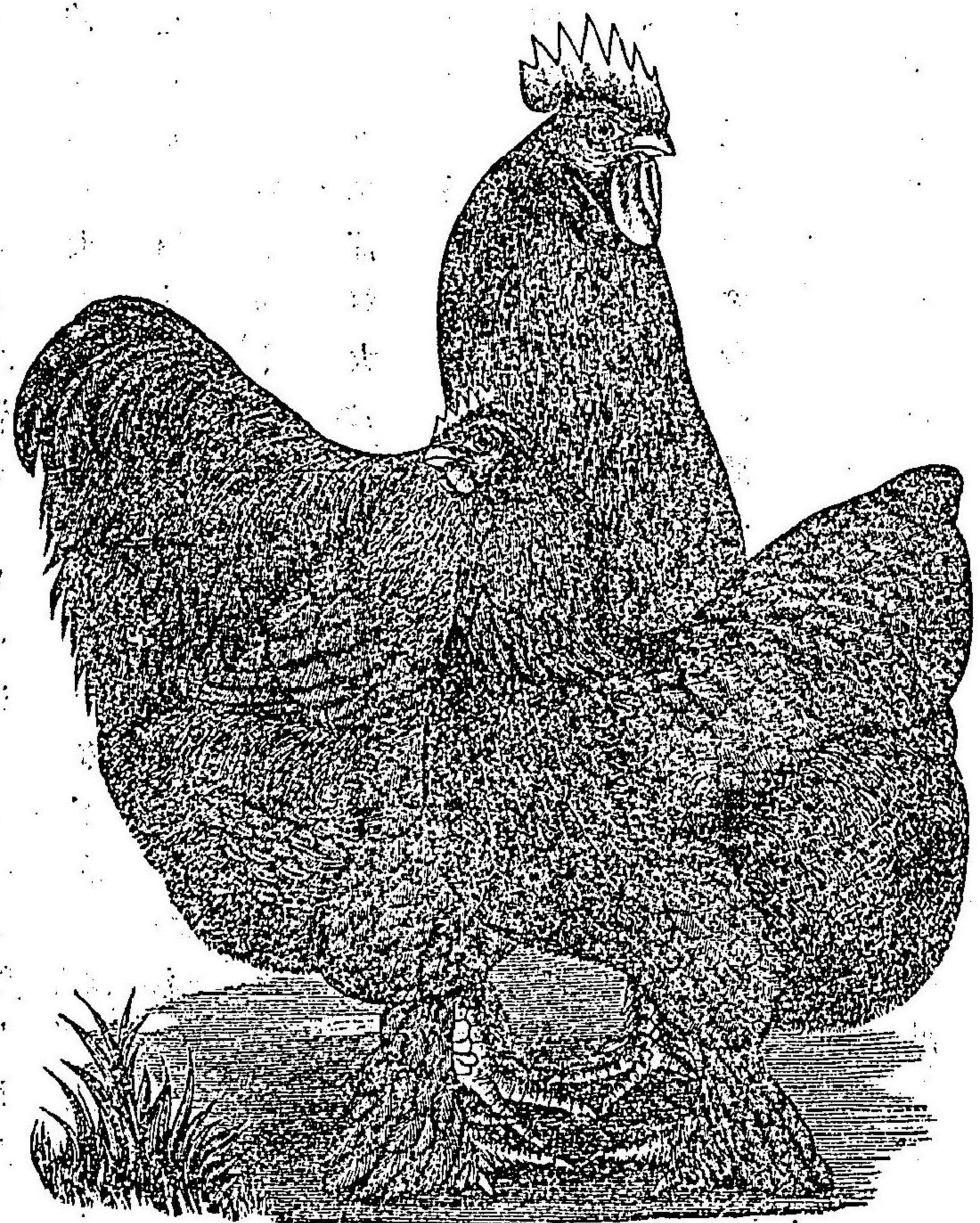
て強く羽毛叢生趾の末端に及ぶ雌鶏の形貌大概雄に同じけれども冠は雄鶏に比すれば甚だ小にして其丈けも矮し頭は小にして強剛ならず尾も小にして短し羽色に二種あり暗色淡色なり

○淡色ブラマの羽色は一般に白し頸羽は黒線を交へ翼羽は黒白あれ共其收まりたる時は白羽のみを顯はす尾羽は雌雄ともに黒く脚は黄色にして羽毛は白けれども少許の黒斑あり

○暗色ブラマは頭白く頸羽銀白色にして黒線を交へ翼羽は收まりたる時は三角状の白色を顯はし胸羽は黒色なり尾羽は雌雄ともに黒くは脚黄色なり脚の羽色は黒けれども白斑あり雌の全體の羽色は茶鼠色にして密なる線紋あり

○コーチン種 此種はブラマ種の如く飼養に注意を要せず其健康に

よく成長して
肥大の肉を有
し且つよく産
卵するを以て
飼養して利益
あり
雄鶏は十分に
直立せずと雌
も容姿威嚴あ
り冠は單一に
して鋸齒状を
呈し嘴は彎曲



淡黄色コーチン種の図

して其根は太く其末は尖れり肉髯大にして薄く下縁は圓し耳朶薄くして長く垂下す頭は體の大なるに比すれば小なり眼は敏捷明快にして其色は黃赫を呈せり頸羽甚た多くして背に到る背は短くして濃し尾は小にして彎曲せり翼は短く收めて殆んど隠るゝに到る軟羽多く垂れ覆羽甚た細かなり胸部濶大にして羽毛深く生し腿は肥大にして強剛多くの軟羽を以て覆ひ脚は短くして太く羽毛を生して趾端に及べり雌の形狀大概雄に同じけれども冠は雄鶏に比すれば甚た小にして頭は細し此種の羽色に種々あり淡黃、眞黑、純白、赤油等なり

○淡黄色コーチンは尾羽に多少の黒色を有すれども其少なきを以て其種とす

○パトリトリチコーチンは頸羽赤色にして光澤あり胸部は黒色なり雌

の羽色は暗色アラマの雌の羽色を茶色になしたるものに同じくして密なる線紋あり冠耳朶及肉髯は各種とも眞赤色を呈せり

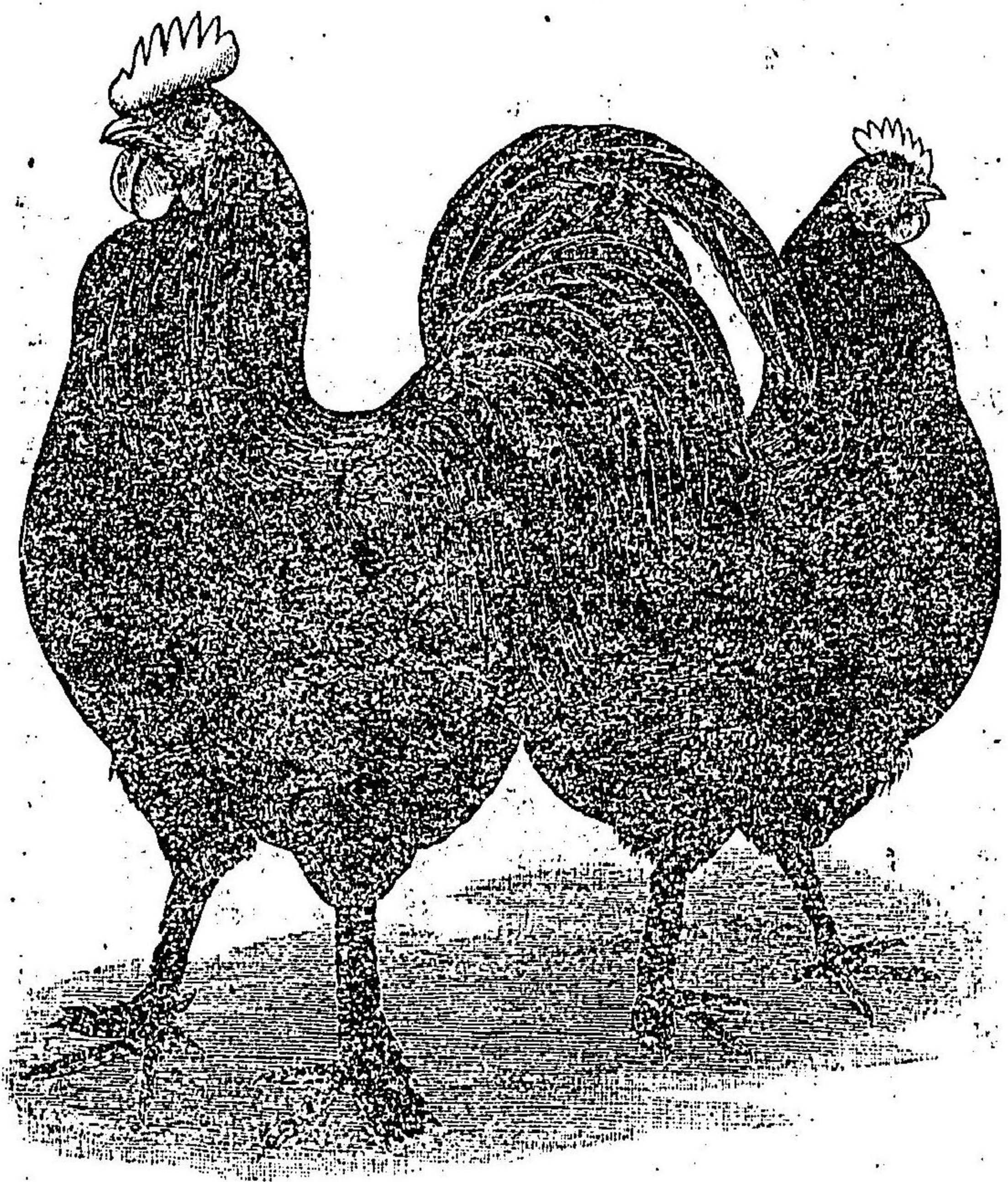
白色、黒色コーチンの二種は全体の羽色純白と純黒にして体格其他は前記のものに同じ

○キングシヤン種 此種はよく産卵しよく卵を孵化す且つ肥大の肉を有し食膳に供して美味なり此種は稍や黒色コーチン種に似たる處あり或は云ふ黒色コーチンの變種にして竟に一種となりしものならんとて體貌は黒色コーチン種に似て稍や圓ならず嘴太くして尖り肉髯は大にして垂下せり耳朶亦大にして眼は明快なり羽色に二種あり黒色白色なり冠肉髯面耳は總て紅色を呈せり尾羽コーチン種より長くして且つ厚し脚は太くして短く外趾に羽色を生すれども中趾には生

せす是れコーチン
種に異なれり處の
一なりとす

○卵用種類

○スパニシ種 此種は容姿傲慢にして舉動敏捷なり其雄鶏は單一高大の冠を有し直立して鋸齒状を呈せり雌鶏の冠も大なれど

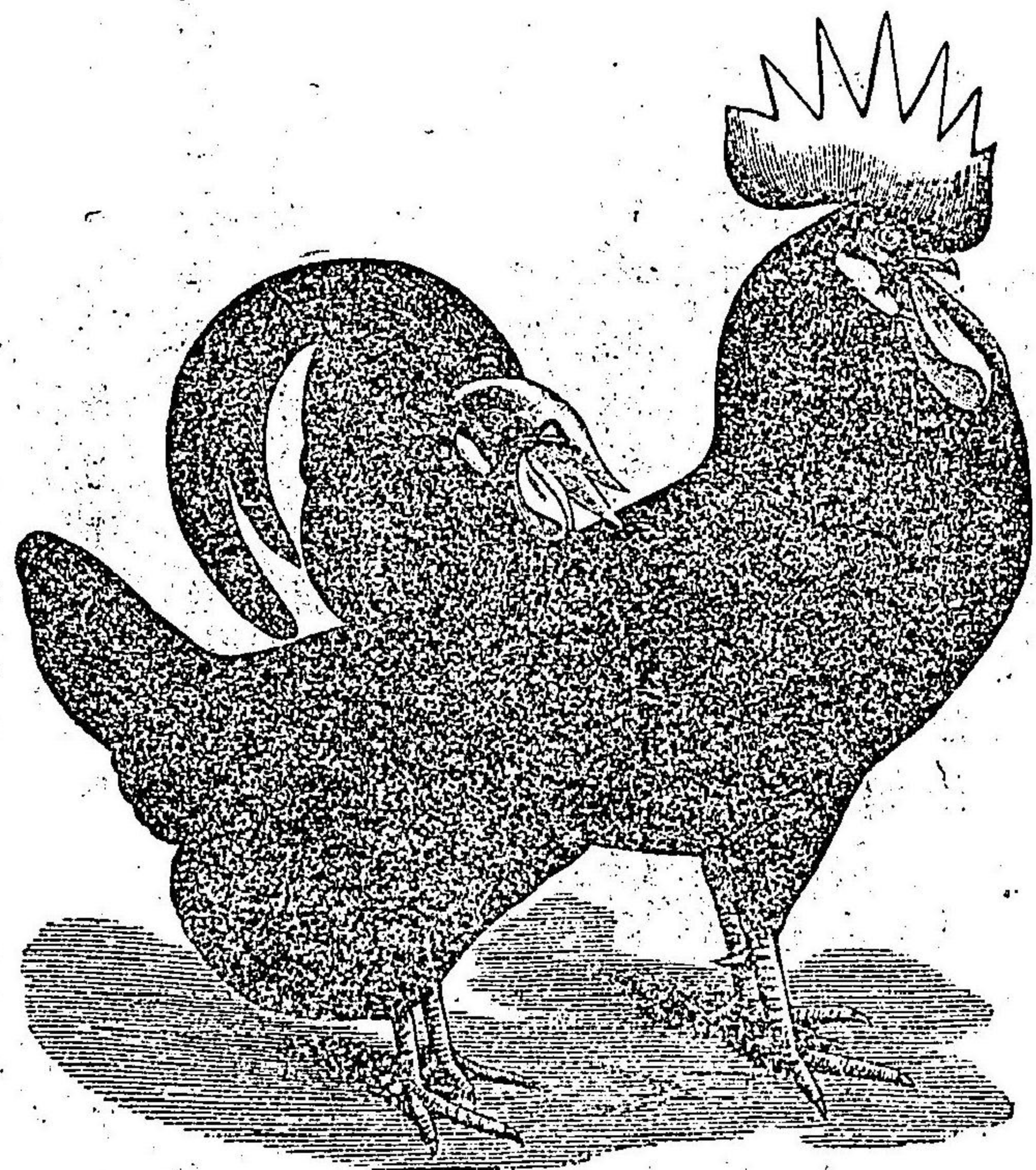


黒色ガラシの図

も一方に偏垂せり嘴は雄雌共暗黒色にして稍や長き方なり肉髯長く薄くして垂下せり耳朶は平滑にして緻なく極めて長く垂れり其下端の圓形をなせり冠と肉髯とは共に赤色なれども面と耳朶とは共に白色なり之を此種の著明なる徴候とす全体の羽色は黒色にして光澤あり頭は雌雄共に長くして眼は大なる方なり頸長くして羽毛多く背は傾斜せり尾は大にして直立すれども背上に至らず翼は大にして體に適應し軟羽覆羽は共に細くして密生せり胸部肉多くして發育宜しく腿部太けれども薄弱なり脚は藍色又は暗鉛色にして四趾を有せり

○ミノルカ種 此種はスパニシ種より變化せし者にして其異なる處ハスパニシ種の如く白面ならざるの差あるのみにして容姿其他ともスパニシに同じ依て赤面スパニシとも唱ふるなり大卵を産して有益

なる鶏なり又白色
 羽のものあれども
 稀に見る處なりと
 す
 ○アンダルシヤン
 種 此種はスバニ
 シ種より分れて一
 の種族となりたる
 者にして西班牙國
 のアンダルシヤ洲
 に於て蕃殖せし者



圖のカルノミ色黒

を改良して一
 の良種となり
 たるものなり
 スパニシと同
 くよく卵を産
 み且つ大卵に
 名あるの鶏な
 り卵味はスバ
 ニシに比すれ
 は佳美なり性
 の敏捷活潑な



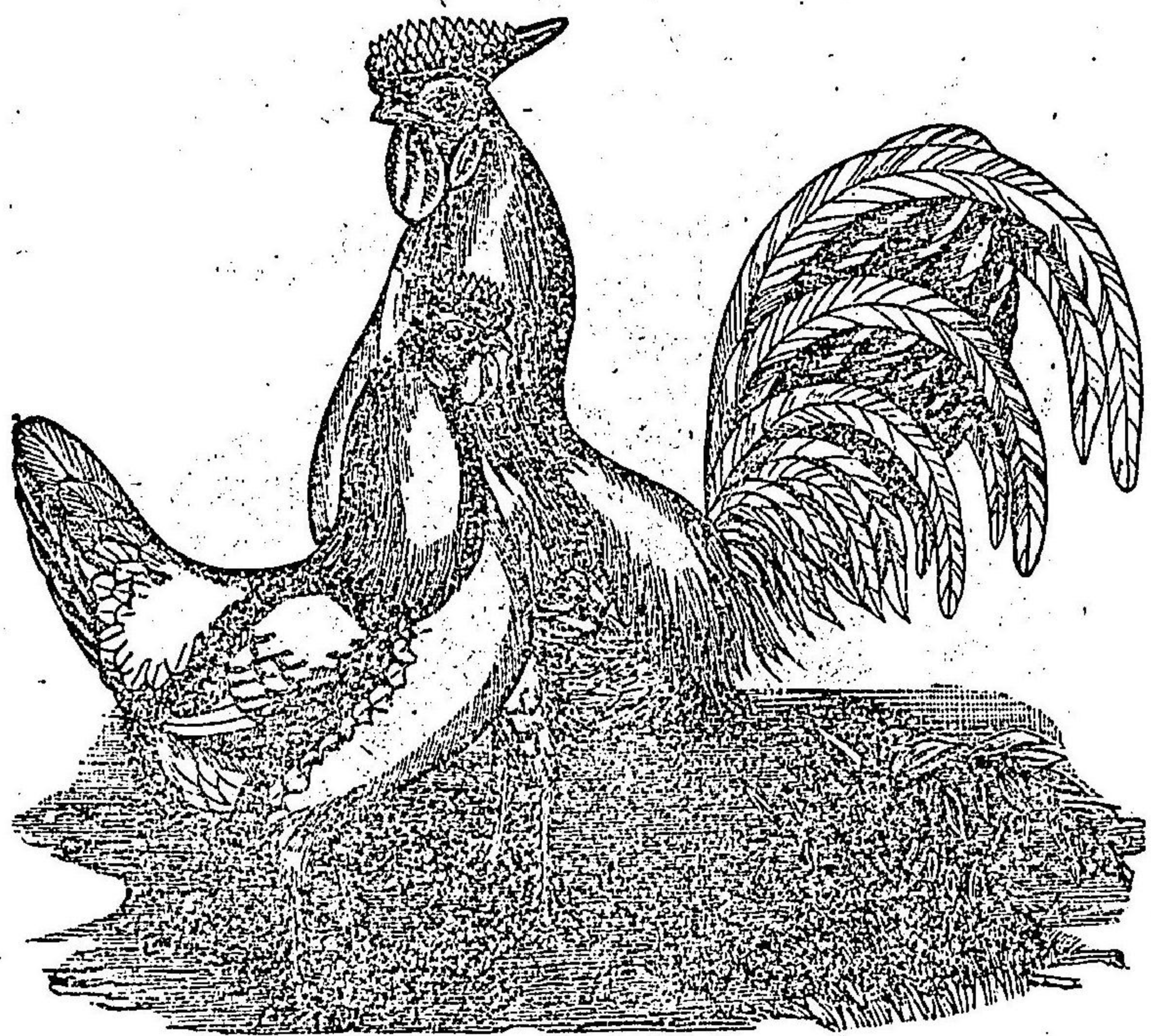
圖のシヤシルダンア

るが爲め母鶏に適せざるはスパニシに同じ羽色の灰色なるものを其原種とすれども灰白交り又は黒色に出るものあり黒色のものはミノルカ種と殆んど識別に苦しむ程類似せり

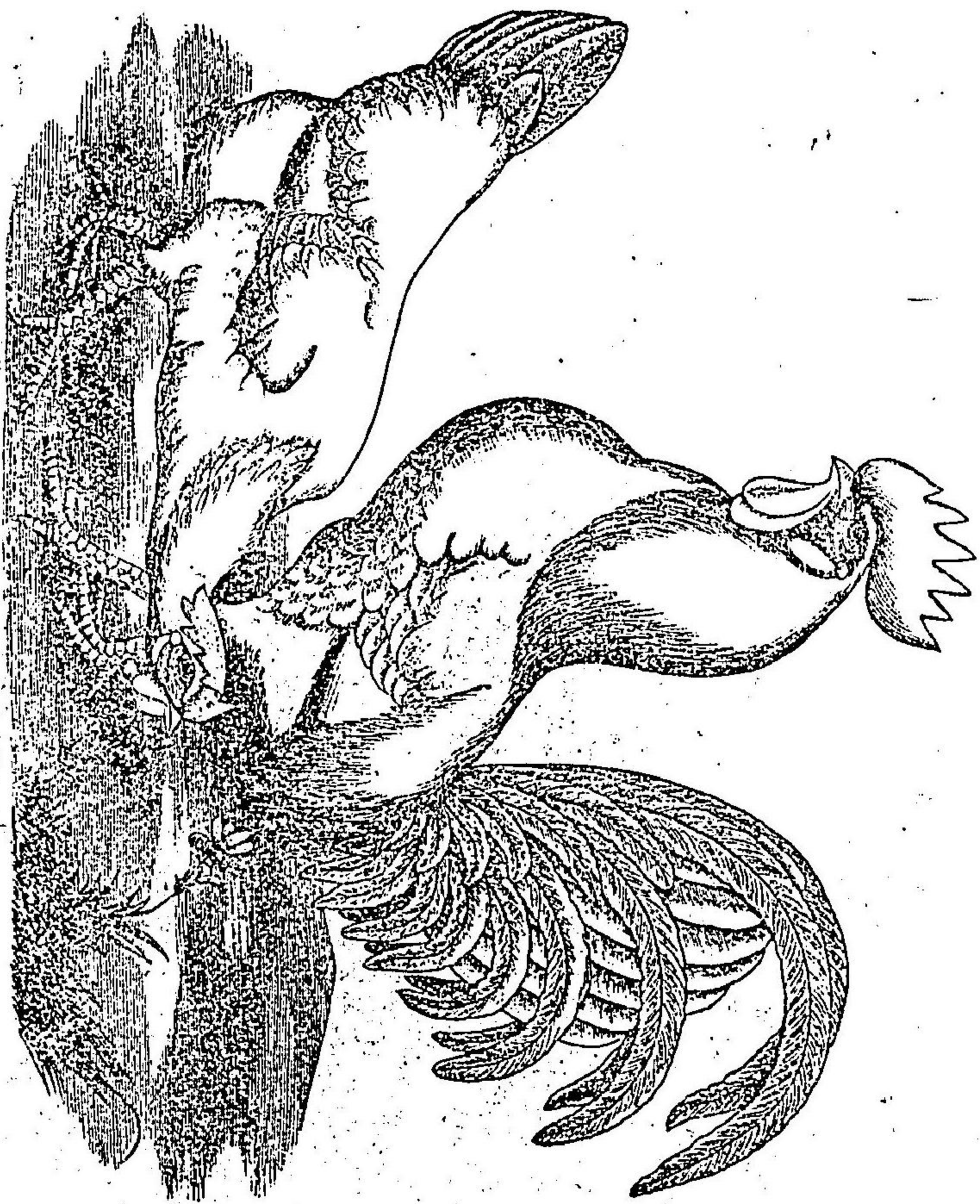
○レグホーン種 此種は伊太利國のレグホーンに於て産出し又其所より他へ輸出せしを以て其名を得たり此種は近頃米國にても盛んに行はれて飼養する者多しと身体強健性質活潑にしてよく産卵し形貌は稍やミノルカ又はアングルシヤンに似て小なりと雖も氣候不順寒氣凛烈に堪るとは卵用種中此種の右に出るものなし故に飼養に易くして北海道にても蕃殖するなり此種の羽色は種々あり白色。褐色。黒色。漣浪等なり

○白色種の容姿は雌雄共に爽快にして威儀あり雄鶏の冠は單一の大

なるものにして直立し鋸齒状をなす雌鶏の冠亦大なれども一方に偏垂せり肉髯大にして長く耳朶圓くして白色又ハ乳酪色を呈す嘴と脚とは黄色なり又よく産卵す飼養宜敷に適へは一ヶ年一雌の産卵數二百二十顆を下らずして米國にては此種を一名卵を爲す器械と稱せり



圖のレグホーン冠齒青色白



白黄色のレグホーン種

最も寒氣に堪ゆると雖も冠及肉髯は幾んど凍瘡を免かるゝと能はざれば充分に注意せざるべからず

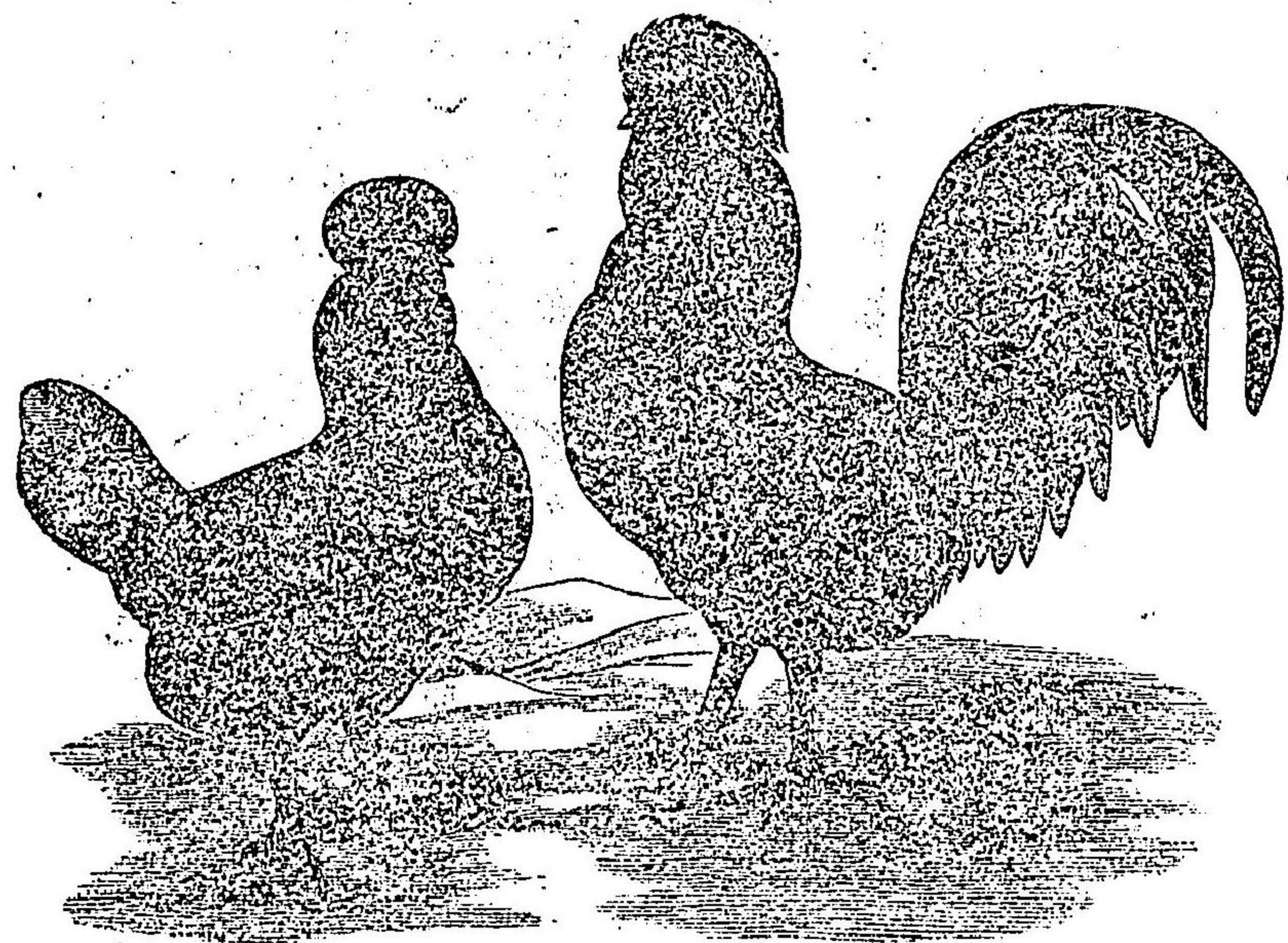
○褐色レグホーン種の雄は翼羽尾羽共に黒く胸部も亦黒色なり頸羽は赤色に黒線ありて光澤を有す雌鶏は^{こげいろ}褐色の線を交り胸部淡赤色にして腿部に至り漸く灰色となれり薔薇冠白色レグホーン種は形貌羽色等總て單冠に同じけれども稍や體格小なり又褐色のものもあれども同しく單冠のものに比すれば稍や小なり

黒色レグホーン種は他のものに比すれば體格小にしてスパニシと同しく光澤あり脚は黒色なれども少しく黄色を含むものを良種とす體格に連れて卵量も小なり

○ドミニキョーレグホーン種は體格は單冠白色のものに同くして産卵

をよくす羽色は雌雄ともに漣浪にして雄鶏の羽色は稍や薄く産卵甚だ多し

○ウーダン種 其本國なる佛蘭西の地名に因て此名を得たるものにて其起源は詳かならざれどもドーキング種と銀色パドー種との配合より生出せしものなりと云へり肉味はドーキング種に匹敵せり卵大にして味も美なり佛人は甚た之



圖のンダトツ

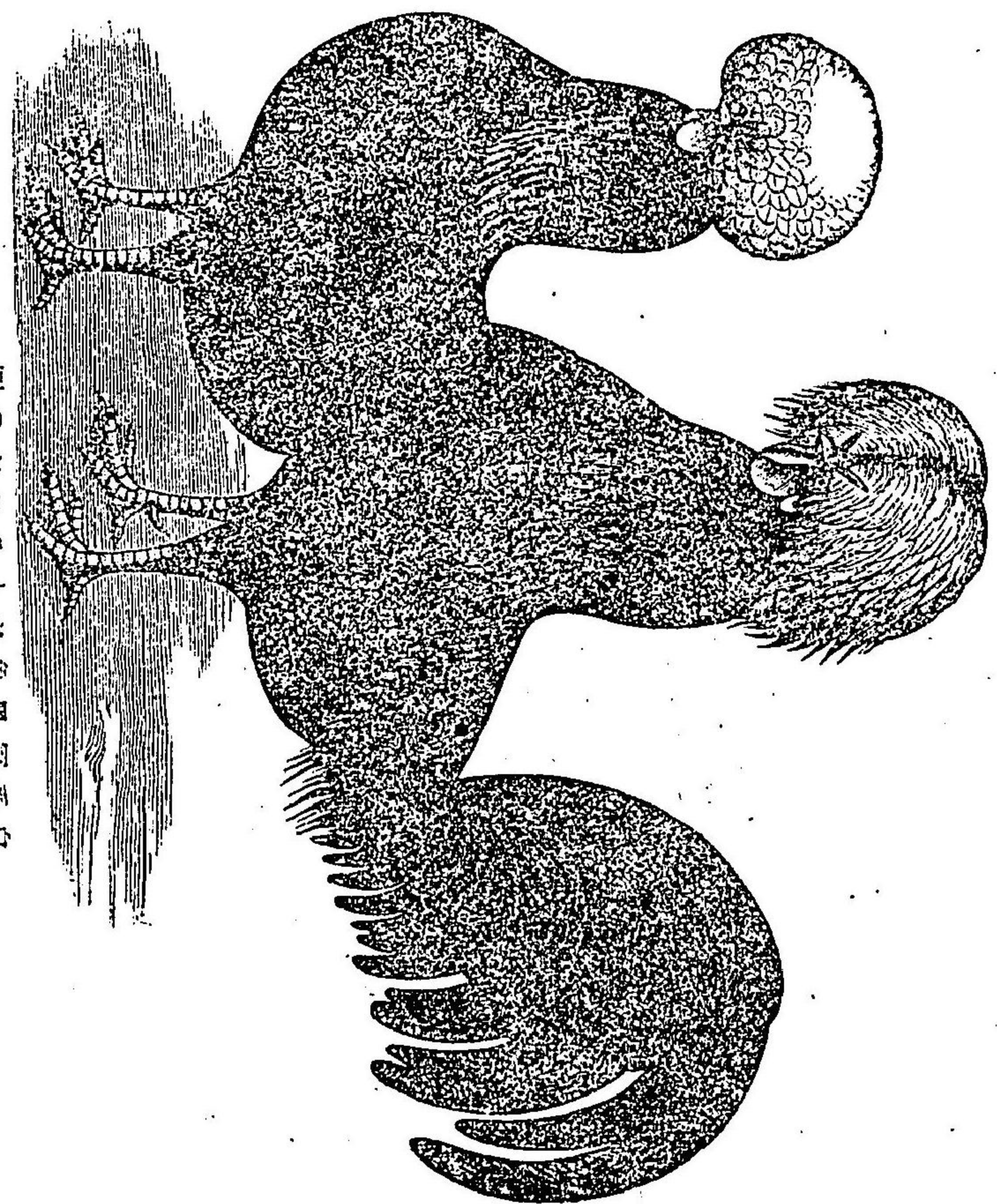
を貴重し其状は恰も英人のドーキング種に於るが如しと云ふ性强壯にして雛の發育よし容姿は直立勇快の状あり頭には後部に垂るゝ處の毛冠を有し毛冠の前面にV字狀の岐冠を着く羽色は雌雄ともに同一にして黑白の斑點を以て飾り美麗にして光澤あり黒斑の多きものを良種とす冠肉髯は赤く脚は短にして厚し色は鉛色にして往々黒き斑點あり五趾を有せり

○グレヅキヨール種 此種は太さ幾んどウーダンに同じ羽色は黒くして綠光を呈し黒色の中に赤羽又は白羽を交へ或は全く白色のものもあり容姿は快活にして威儀あり毛冠はウーダン種に比すれば小なり赤色の冠は二角狀をなせり脚は鉛藍色又黒色なるを要す

○ラフレッシュ種 此種は佛國のラフレッシュ村より産出せしを以て此

名あり形貌の黒色スパニシに似たり然れども小冠の甚だ異様にして其状は恰も直立せる二個の角に似たり且つ鼻孔及嘴の接合部に赤色の凸起せる塊肉あり肉髯赤色にして長く垂下せり耳朶大にして白色を呈す嘴は黒色にして稍や彎曲し眼は鮮明にして大なり体格は細長き方にして胸部潤し全體の羽毛は黒色にして青紫色を帯ひ甚だ光澤あり脚は長くして黒色又は鉛藍色を呈し雌鶏の容姿大概雄鶏に同じけれども稍や小なるの差あるのみ

○ポーランド種 此種は體貌優美にして羽色も美麗なるを以て愛顧に適し且つよく産卵するなり多くの毛冠を前後左右に垂るゝが故に雨雪の際は之を濡して爲めに魯布疴を醸すとあり注意すべし又多き毛冠は眼を覆ふが爲めに遠く遊んで歸路に迷ふとあり害敵の難に懼



白冠黒色ポーランドの圖

り易きを以て眼を覆ふ處の毛羽を翳り除くの必要ありとす此種は白毛冠黒色種。白毛冠白色種。銀色爛斑種。金色爛斑種等あり

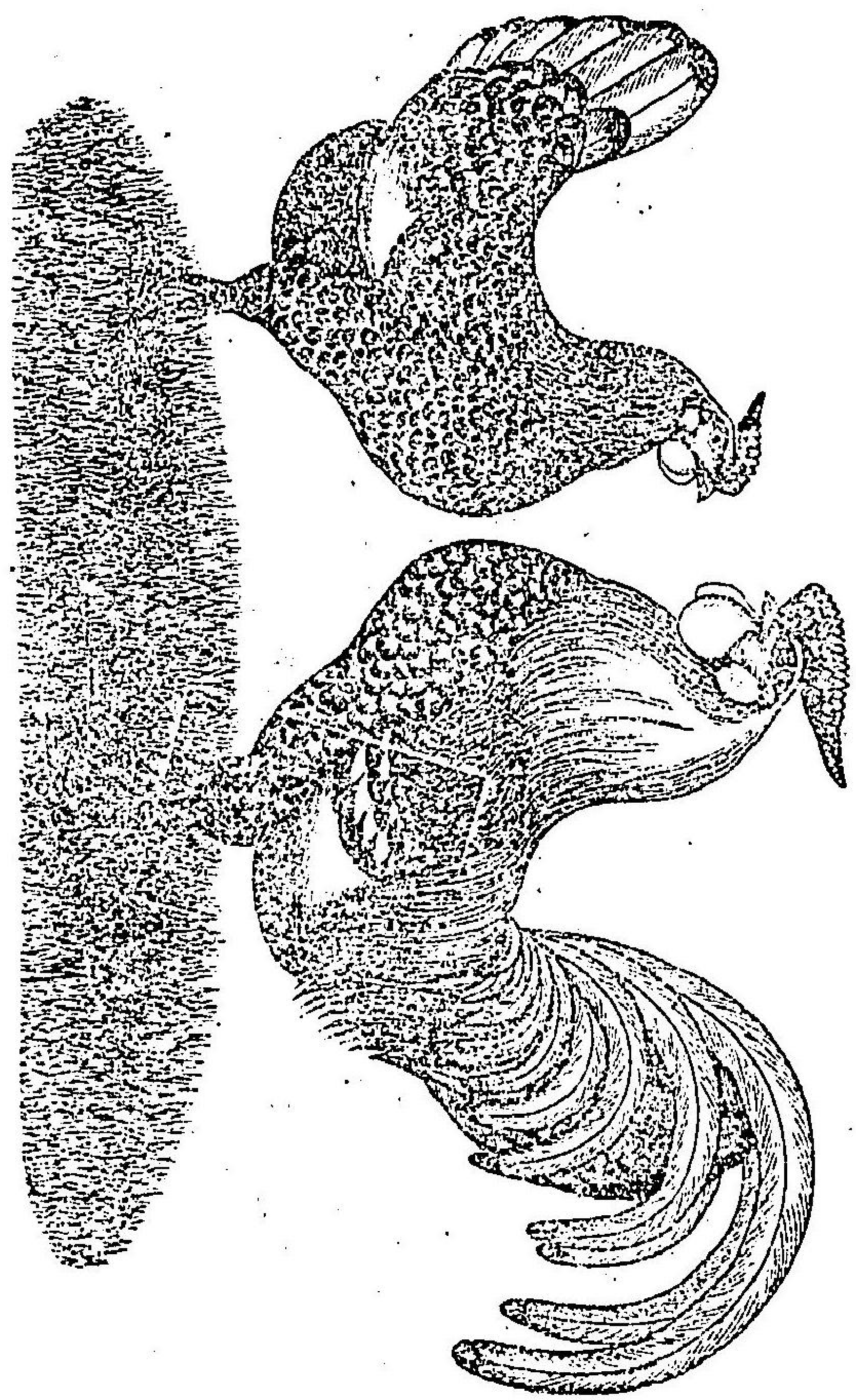
○白毛冠黒色種は全體黒色にして頭冠のみ白毛なり八方に垂下して兩眼を覆ふV字形の冠を着け耳朶不透純白色を呈せり脚は黒色又は鉛藍色なり

○白毛冠白色ポランド種は全體白色にして總て白毛冠黒色に同じ脚は鉛色のものあり白色にして鱗間に肉色を呈するものもあり

○金色爛斑種は以上の二種に比すれば毛冠稍や渺なし羽色は金栗色にして羽端に黒の覆輪を有す脚は鉛藍色を良種とす

○銀色爛斑種は金色爛斑種同様にして唯羽色の差違あるのみ

○ハンバーグ種 此種の羽色は金色イールランド或基石ペンシルベニア金色ペンシルベニア鷹羽ペンシルベニア基石。銀色ペンシルベニア或基石。



圖のグーイマン色類

銀色鷹羽基石、黒色又近頃白色のものをも出したりと云ふ該種は總て體格小にして輕捷頗る卵を産むに名あるものにて産卵鶏中敢て他種に譲らざる有益の鶏なり一ヶ年一雌の産卵數は二百顆以上に及ぶ殊に羽色の美麗なるは他種に於て稀に見る處の愛翫を兼ねたる鶏なり

○金色散基石ハンバーグは羽色金栗色にして各羽の端に圓き黒點あり冠は薔薇冠にして面及肉髯共に赤く耳朶白く尾は雌雄ともに黒く最も雌鶏の尾羽は栗色を交へり脚は石盤色なり

○金色鷹羽基石ハンバーグは羽色金栗色にして各羽の端に弦月形の黒覆輪あり雄鶏の尾羽は黒く雌鶏の尾羽は鷹羽の如き黒き線紋あり其他は散基石のものに同じ

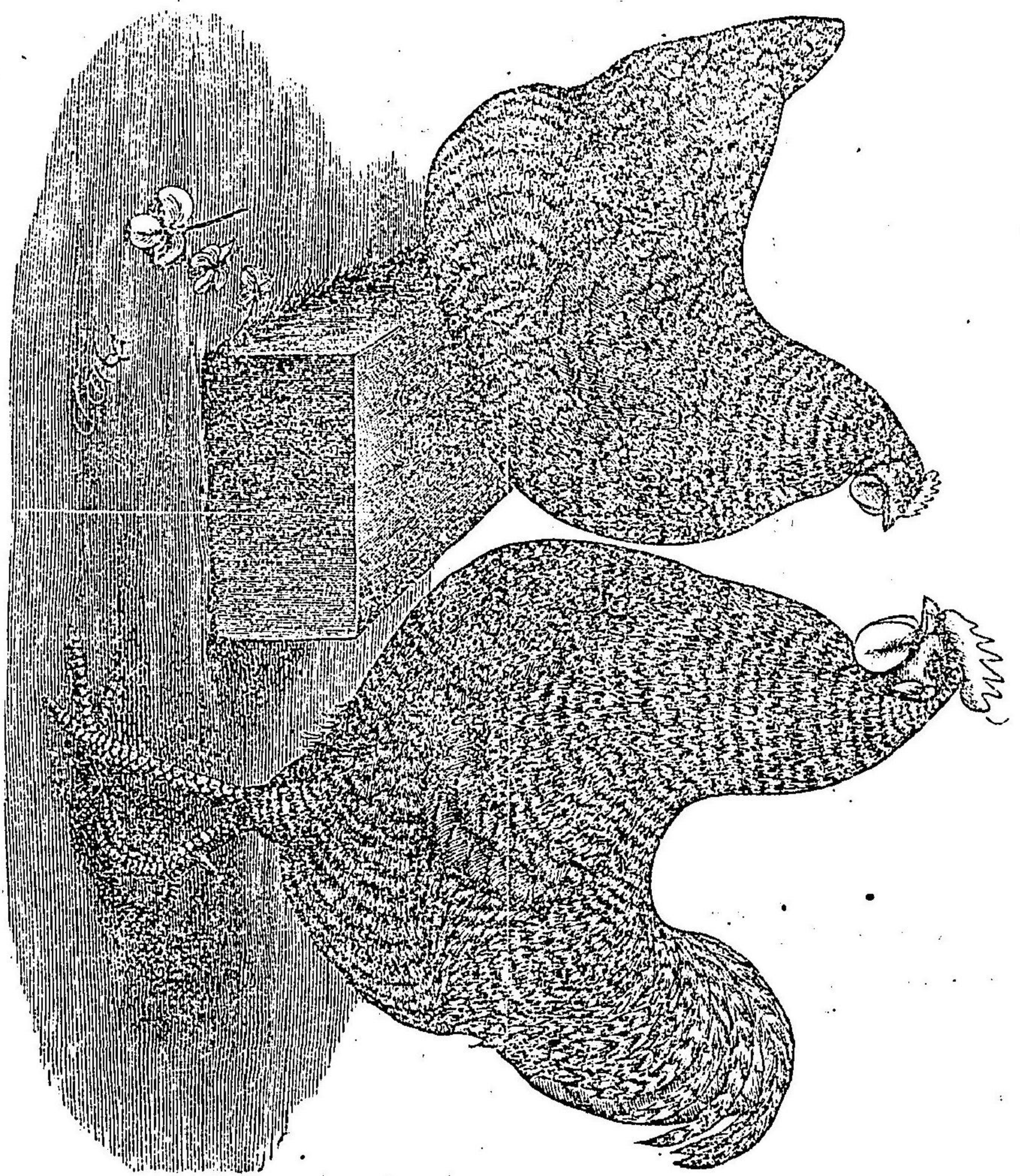
○銀色散基石ハンバーグは羽色銀白にして羽端に圓き黒點あり又尾羽の尖端に圓き黒點ありて甚だ美觀なり尾羽の色金色のものに異なるのみにて其他には異なる處なし

○銀色鷹羽基石ハンバーグは金色鷹羽基石のものど斑紋同ふして唯羽色異なるのみ他に異なる處なし雄鶏の尾羽は黒色にして薄き白色の散輪を取れり

○黒色ハンバーグは羽色綠黒色を帯ひて光澤あり其他體格冠脚等前記のものに異なる處なし

○肉卵兼用種類

○プリマウスロツク種 此種は米國の産出鶏にして今を距ると殆んど三十年前マサチウセツト洲に於てアメリカン・ドミニキウ種と黒色ジャバ種との異種配合より得たるものなりと云へり其他此種の起源



図のクマノエーホーノ種

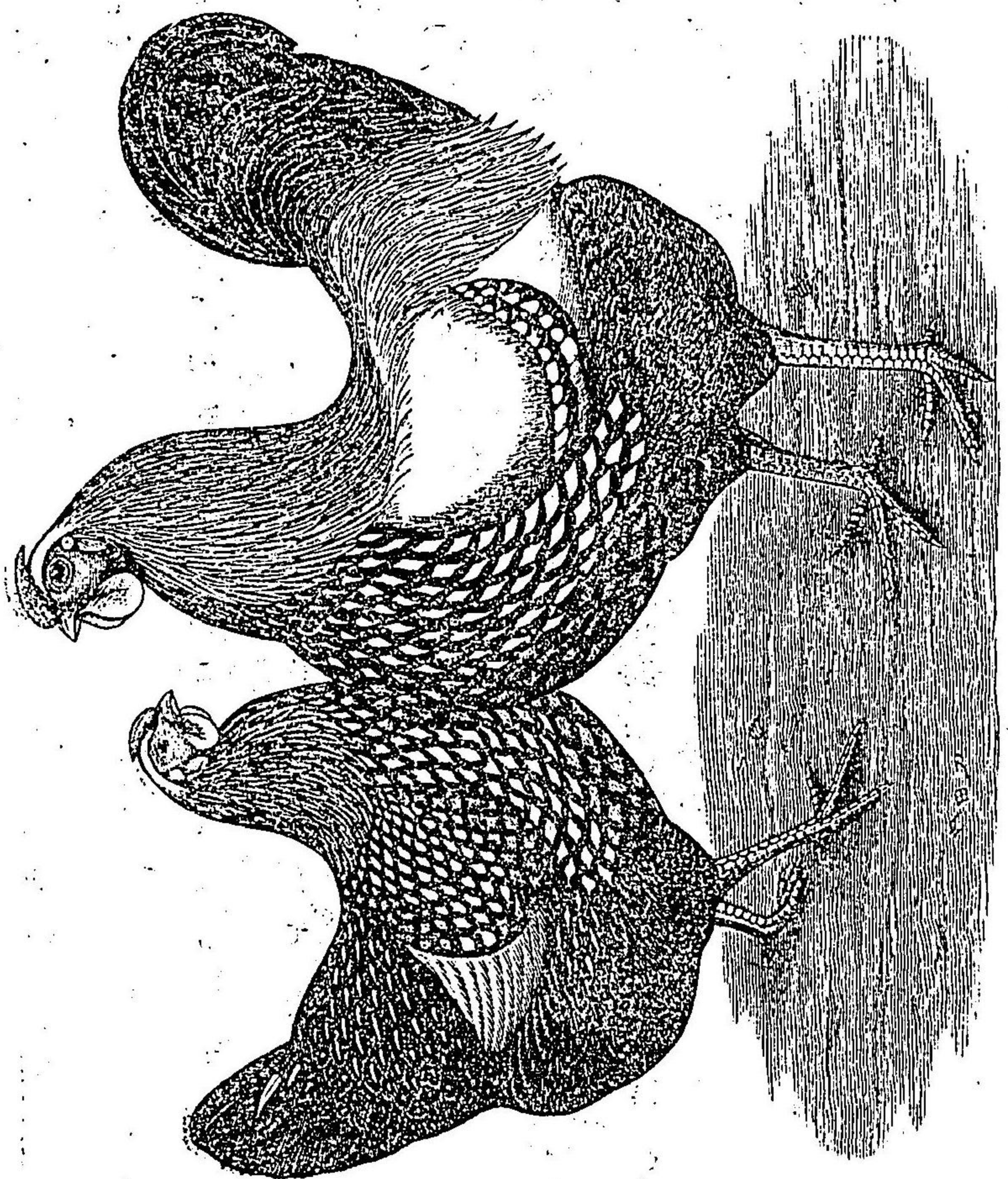
に就ては種々の説あれども畧す羽色に二種あり漣浪。白色なり成育速
 かにして孵化後六七ヶ月にして産卵す卵大にして其色は赤黄を含め
 り肉味頗る美にして幼齡より食膳に供するに適せり産卵需肉を兼ね
 たるものにて母鶏とするに雛愛育の念深くして最もよし

○漣浪プリマウスロック種は薄黒と白と互ひに相重なりたる段縞の
 羽色にて美麗なり冠は單冠にして大ならず体格稍や圓き方にして翼
 はよく疊みて收まり脚は黄色を多しとすれども往々綠色のものあり

○白色プリマウスロック種は体格其外とも漣浪種に異ならず唯羽色
 の白色なるのみなり

○ワイアンドット種 此種は最初アメリカンシトブライトと稱した
 るものなれども其根元は未だ詳かならず銀色ハンバード種と暗色ブ

銀色ワイアンドットの図



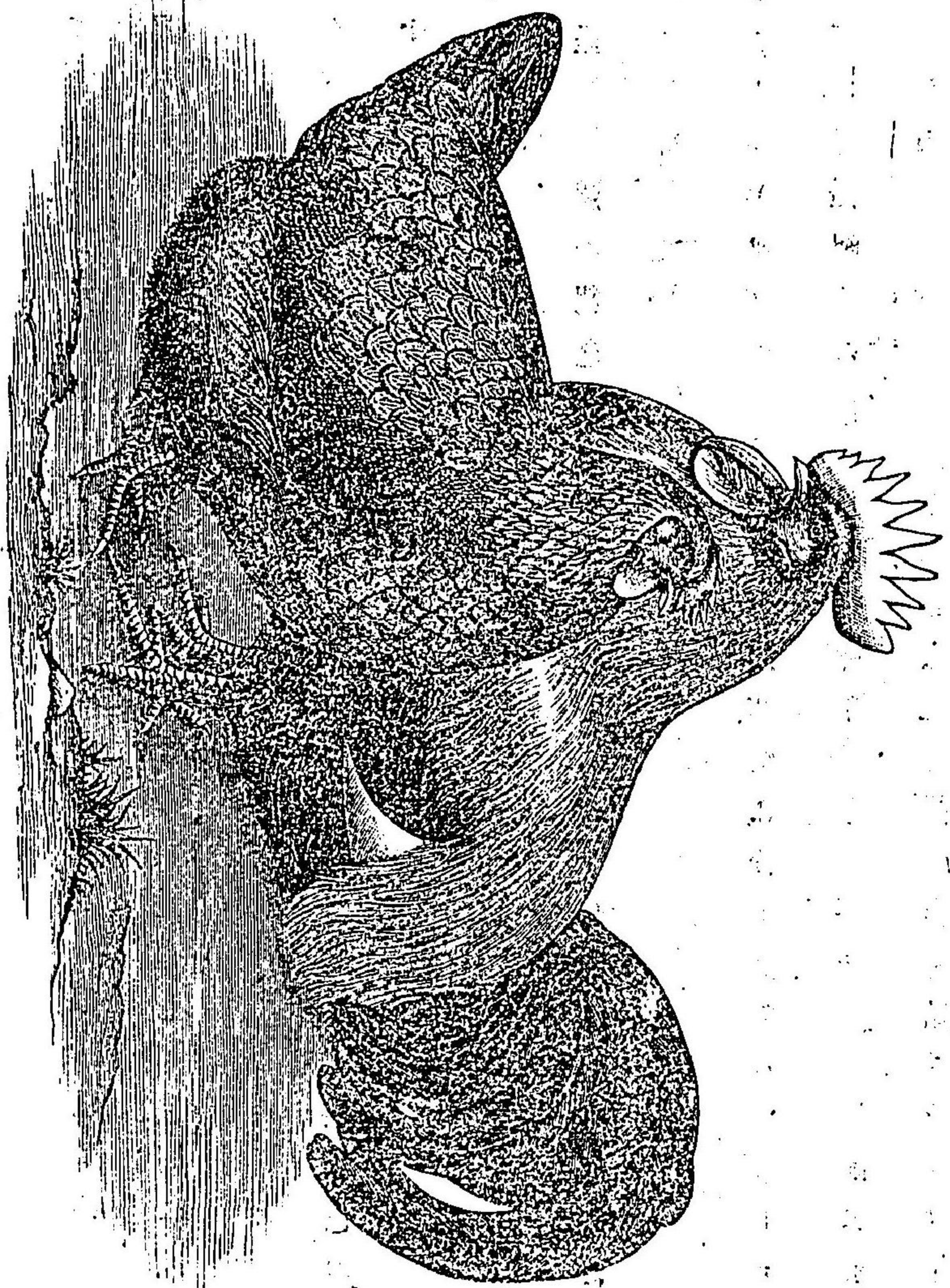
ラマ種との異種配合より出たるものならんと假定せられたり冠は鈍粒の薔薇冠にして体格は暗色ブラマに似て稍や小形なり脚は黄色にして薄赤色を含めり肉味佳良産卵をよくし母鶏に適するの種にして雛の發育最もよし羽色に三種あり銀覆輪。白色。金色なり金色ワイアンドットは今を距る八九年前の産出にして漸く一種として名を知られたる新種なりと云ふ

- 銀覆輪ワイアンドットは頸羽白笹にして胸部より腿部に到るまで白羽に黒の覆輪を取りたる美麗なる飾りあり脚は黄色なり
- 白色ワイアンドットは体格其他とも銀覆輪種に同じ唯異なる處は羽色の白色なるのみ脚は黄赤色なり
- 金色ワイアンドットは銀覆輪ワイアンドットの白き部分が金栗色

に代るのみにして他に異なる處なし

○ドーキング種 此種の名稱は英國サセック洲のドーキング村より出たるに依てなり最初此種の英國に來りたるは羅馬人に依るものなりと云へり又米國へ輸入されたるは一千八百四十年の頃なりと云ふ此種は成長早くして肥肉の性あり肉味の美なるは他鶏に稀に見る處にして食膳に供ずるに適す且産卵多く大卵を産し母鶏として慈愛の念深し冠に單復の二種あり五趾を有す羽色に三種あり銀灰色黒色白色なりとす

○銀灰色ドーキングは雄鶏の胸部及尾羽は黒色にして頸羽頭羽背羽。鞍羽及翼根は銀白色なり兩翼は黒き條線あり羽端は白し雌鶏の胸部は淡赤色にして腿部に至り漸く灰色となれり頸羽は銀白色又は灰色



圖のケンキード色灰銀

にして頸羽には銀白色に黒條を交ゆ背羽翼羽は銀灰色なれ共羽根は白し尾羽は暗灰色にして内部は黒し脚は白色にして鱗間に肉色を帯べり

○白色ドーキングは全體の羽色純白色にして其他は銀灰色の者に異ならず多くは復冠なりとす

○黒色ドーキングは全體の羽色黒色なりと雖も或は頸羽に雄鶏は金色を呈し雌鶏の銀色を帯る者なきにあらず此種は大概復冠にして單冠は稀なり

○レットキヤップ種 此種は近代英國に於て金色ハンバーク種とマレー種の異種配合より得たる一種なりと云ふ一時は同國に於て大に流行せし由なるが名の如く赤き大冠を戴き容姿頗る愛すべきを以て

愛翫鶏として世の嗜好に適す羽色は金色霞霏石ハンバークに似て同種と異なるの點は光澤の稍や掛きのみ體格は雄七八百目雌五六百目にしてよく産卵すれども整巢の念甚だ薄し
右の外に種類夥多あれども一小冊子の許す限りにあらざるを以て爰には近頃我國にて洋種鶏中最も名を知られたる實用的のものゝみの大略を記せり

養鶏手引草終

明治二十七年三月二十六日印刷
明治二十七年三月二十九日發行

定價三十五錢



著作兼發行者 飯田平作

印刷者 三島謙三

發行所 豐岡町種禽場

印刷所 三島印刷所

○大賣捌所
東京神田區猿樂町一丁目
東京家禽雜誌社

東京日本橋區吳服町卅二番地
牧畜雜誌社
東京麻布區本村町
農學社

東京京橋區南傳馬町
有隣堂
京都烏丸通下長者町北
京都家禽新報社

東京家禽雜誌

毎月一回
二十五日
發行

定價一冊(郵税共)金八錢 六冊全四十五錢
十二冊(全)八十八錢

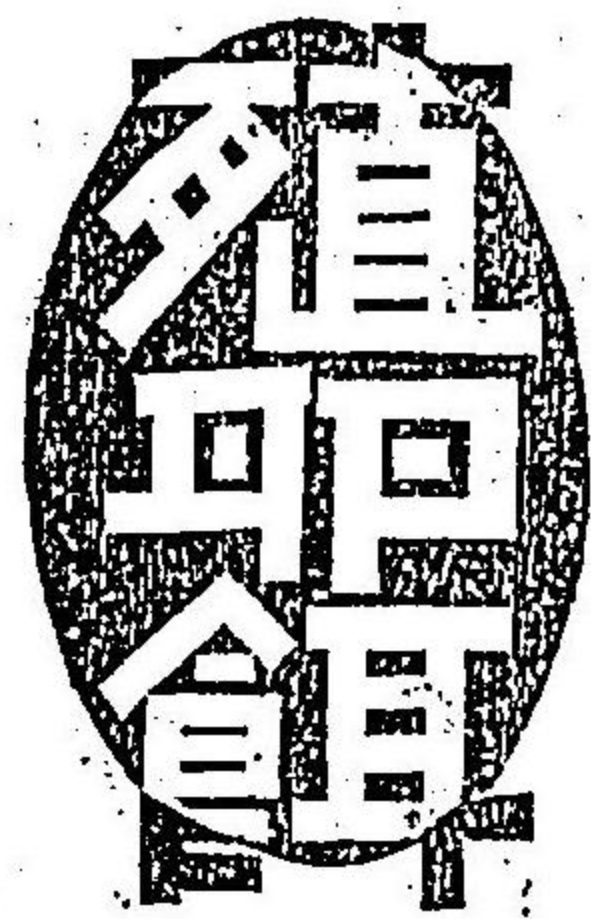
- 本誌は明治二十三年四月創立
- 本誌は家禽に關する事柄は理論實驗ともに載せて漏らすとなし
- 本誌は欄を分ちて論説寄書叢談問答雜録の數門をなす専ら實業家の指針たるべき有益の記事を掲ぐ
- 本誌は毎號精密なる木版石版畫等を挿入し家禽の標本畫を示せり
- 本誌は日本家禽協會の記事を掲げ又歐米諸國及び本邦各府縣下の家禽の景況を掲ぐ
- 本誌の見本を望まると方は郵券八錢を送れ

額面用彩色家禽畫

○ 十二種家禽畫 一枚郵税共金十五錢つゝ
○ 新十二種家禽畫 十枚以上割引す
右兩種共職近流行の家禽十二種宛を一枚摺りとなし着色を施したるものにして其價の廉に比し彩色の美麗あると彫刻の精巧能く家禽の標本畫たるに適するの好評を博したり今や兩種共僅かに數十枚を發すに過ぎず多少とも御注文を乞ふ
東京市神田區 東京家禽雜誌社
猿樂町一丁目

東京各禽種場主有効保証

矢橋協會製

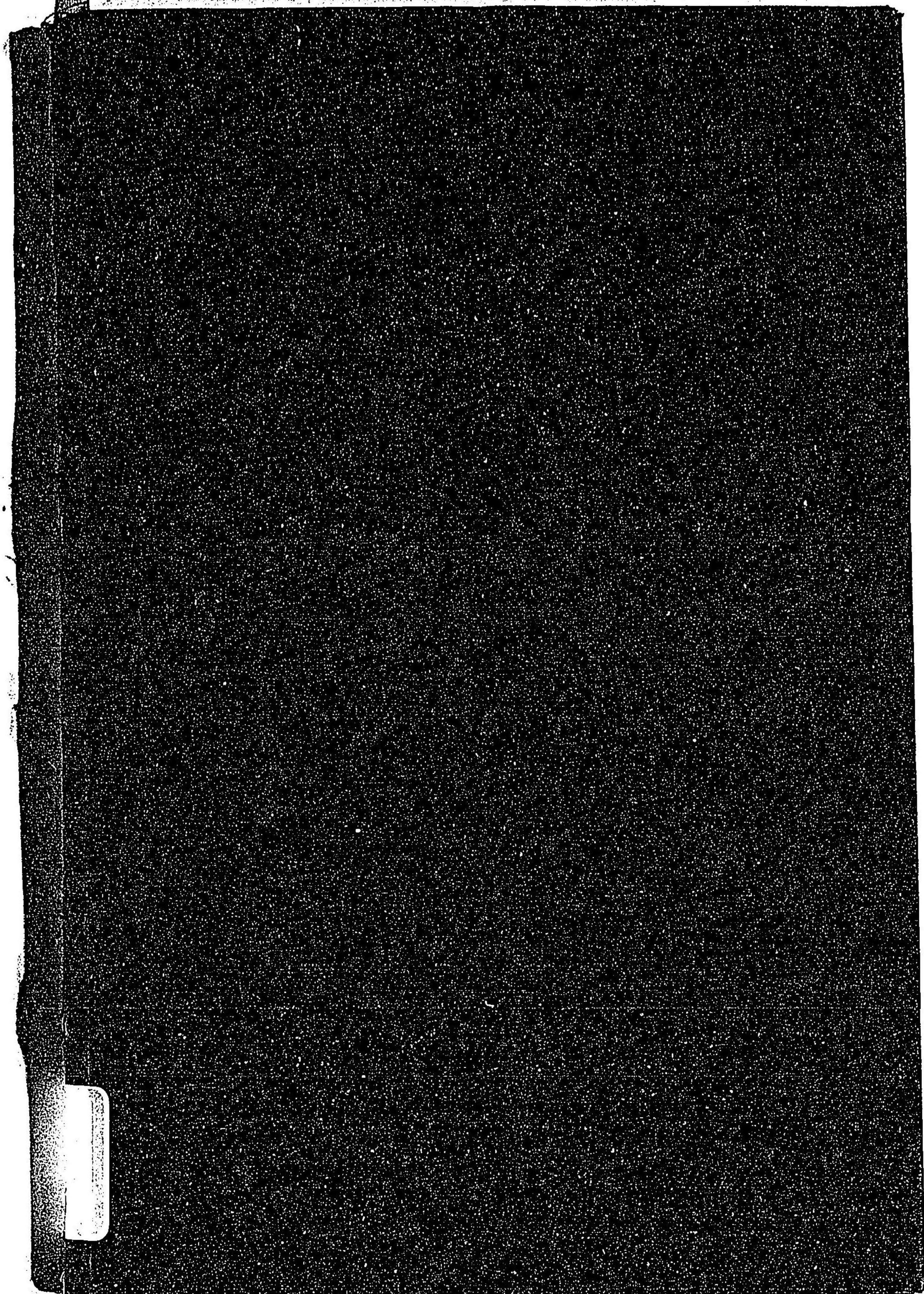


一名鶏に多く卵を産まするすり
百二十目に付 金十五錢
六十目に付 郵税八錢
金八錢 郵税四錢

抑も此「殖卵餌」は發明者多年の刻苦と研究を積み學理上より鶏卵製造に必要な都ての原質材料を漏らさず蒐集調合せしを以て鶏の内各種を問はず此「殖卵餌」の少量を毎日一回づゝ給與するときは酷暑入寒の別なく壯鶏は勿論老鶏の休産したるものも雖も給餌後十七八日を經は産卵を始める年中休産する事なし且此「殖卵餌」は卵に必要なるあらゆる健胃強壯劑をも含めしに給餌は産卵を速かすを主とするのみならず雞に倍強壯にして炭病に罹ると稀れなるへく殊に換羽期は最も短かく又病鶏に給餌は衰弱を醫するのと連なり種禽に給與して差支へなし○用法は包紙に詳かなり○郵便爲替は芝櫻田本郷町取扱所○郵券代用は一割増しの事

日 仲 堂
東京市芝區南佐久間町一丁目一番地

9
225



9
225

065109-001-1

9-225

養鶏手引草

飯田 平作/著

第1編

M27, 30

CCD-0588



